

国立国語研究所学術情報リポジトリ

石川県羽咋郡志雄町荻市方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003029

方言録音資料シリーズ— 9

石川県羽咋郡志雄町萩市方言

国 立 国 語 研 究 所 編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」（代表者 大石初太郎）の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法，方言の表記の方法などのあらましについては，別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは，金沢大学教授 岩井隆盛 が担当した。

も く じ

収録地点とその方言について	2
---------------------	---

表記について	3
--------------	---

本 文

荻市の昔と今

(1) 修 学 旅 行	5
-------------------	---

(2) いまの若いもの	8
-------------------	---

(3) レンゲ山の角力	10
-------------------	----

(4) 小さい時の小づかい銭	19
----------------------	----

(5) お祭りのこと	22
------------------	----

(6) お寺の法事	27
-----------------	----

(7) オラッチャ・ヤーヤなど	32
-----------------------	----

(8) 通学の服装など	39
-------------------	----

(9) むかしの進学	42
------------------	----

(10) あ い さ つ	46
--------------------	----

(11) 之 乎 路	59
------------------	----

(12) イッタッタ・キタッタなど	64
-------------------------	----

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：石川県羽咋郡志雄町字荻市

2. 収録地点の概観

荻市は農村であるが、志雄町の中心である子浦に接し、かつて（安永年間）子浦をも支配する十村がこの荻市にいたことのある部落である。それはともかく、金沢～七尾、羽咋～氷見の交通の要地である。とくに羽咋（能登）～氷見（越中）の路線は家持の時代すでに開けていたようである。

3. 収録した方言の特色

荻市の言語は、北陸西部とくに能登・越中の方言である。

音声では、シとス、チとツ、ジとズ、イとエ、サ行とハ行、ワとバの混同のほか、シェ、クッなどもある。文法は近畿に通ずるものが多い。しかし北陸ふうな準体助詞のガ（の）や、越中と似た敬語のイッタッタ（行かれた）なども目につく。

語彙では、能登ふうなベッチャ（ちがう、いいえ）、クダイ（下さい）、ハゾ（稲架）がこのあたりからはじまる。ヤモド（たくさん）は加賀の北部でも使うが、ケンケ（くれませんか）はここの特徴かと思われる。なお古風なバッカイ（面倒・世話）などがある。

4. 地点選定の理由

ここは能登の南部にある。東は越中（富山県）に直接つづいている。南は押水町一つをへだてて加賀（石川県）である。地域的には、加賀・能登・越中の接点であり、能登ふうな方言はここからはじまるともいえる。

表 記 に つ い て

〔 指定の字母以外に使用した字母, および使用した補助記号 〕

字母・補助 記号の種類	語 例 と 意 味	(標 準 語 訳)	音価についての注記
ə	horeə	(それは)	əə
ɨ	sɨraŋzo	(知らないぞ)	ɨは中舌

1. horeəの後部はreəに近いと思う。それはともかくreə, koəなどは1音節である。
2. sɨraŋのsɨふうなものをsuのように表わしたところがあるかも知れない。

以上のほかはすべて指定の表記かと思う。

萩市の昔と今

録音日時 1967年8月21日

録音場所 石川県羽咋郡志雄町

字萩市坂本貞夫氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

D 土一登美 女 明治35年生 飴の製造販売 石川県羽咋郡志雄町字萩市だけ

S 坂本貞夫 男 昭和18年生 小学教師 同上 ただし昭和42年4月から羽咋郡富来町にも住む

I 岩井隆盛 男 明治42年生 大学勤務 0~12才羽咋郡押水町 その後、金沢・東京・金沢・石川県河北郡津幡町

- 解説: 1. 修学旅行 7. オラッチャ・ヤーヤなど
2. いまの若いもの 8. 通学の服装など
3. レンゲ山の角力 9. むかしの進学
4. 小さい時の小づかい銭 10. あいさつ
5. お祭りのこと 11. 之乎路
6. お寺の法事 12. イッタッタ・キダッタなど

(1) 修学旅行

S ⁽¹⁾ ano on oba: cjan wakai ⁽²⁾ tokinii: omoqsjo-
あの おばあちゃん、 若い ときに おもしろ

kaqta koto nanka naika tegaja ⁽³⁾ wakai tokini
かった ことが なにか ないか というのだ わかい ときに

D omosirokaqta kotonen
おもしろかった ことね

S ⁽⁴⁾ on musume zidaidemo joisi
うん、 むすめ 時代でも よいし、

D hojane: man iciba: N ⁽⁵⁾ kono kiokuni nokoqtoru
そうだね、 まあ いちばん この 記憶に 残ってる

kotowan mukasi zinzjo: ande man rokunen
ことは むかし 尋常(小学の) あれで まあ 六年

desitakanen warazi haiteen hakama haite
でしたかね、 わらじ はいて はかま はいて、

hosite hemini made aruite hosite zuqto
そして 氷見にまで あるいて、 そして ずっと

husikini iqte iqpaku site hosite kaeqte
伏木に 行って 一泊 して、 そして 帰って

kitapapa iciban horepa kiokuni nokoqtorupai (6)
来たのが いちばん それが 記憶に 残ってるのだ。

S rjoko:ke (7)
旅行ですか。

D rjoko
旅行。

S hu:N horep (8) cincjai tokijarone (9)
ふうん、 それは 小さい ときだろうね。

D zinzjo goneNka rokunenjaqta rokunen ko:to
尋常 5年か 6年だった、 6年 高等(小学)

icineNnimo naqto-qtakane:
1年にも なってたかね。

S hu:N hon toqkja hikawajane gaqko
ふうん、 その ときは 樋川だね、 学校は。

D hikawaja hositara hono sugata.o.o.N sja-sun-
樋川だ。 そしたら その すがたを 写真

ni ucuite ima miru cju:to donna jokaqtamo
にうつして いま 見る というと どんな よかったも

sireN tete omoajaredo sono zibuNnaaN
知れない と 思うのだが、 その ころは

sjasinmo nasine
写真も ないしね。

S hu:N hositaraan ima mukasi omosirokaqta
ふうん、 そしたら いま むかし おもしろかった(ことは)

hono hondake dakeke mada nanka hono kawaqta
 その それだけ だけですか。 ほかに なにか その 変った

kotoo nakaqtake
 ことが なかったですか。

D hojane kawaqta ju:ta tete imamitai konnaan
 そうだね 変った(と) いった といっても) いまのように こんな

..... aqci koqcito rjoko:ni aruita cju: kotoo
 あちら こちらと 旅行に 歩いた という こと

mo nasi taisitanen mukasi zinzo ninenbura-
 も ないし、 たいした(ことは)ね。 むかし 尋常 2年くら

ino tokika kanazawamade sju:baku rjoko:ja
 いの ときか、 金沢まで 修学 旅行だ

tete iqte kita kotomo oboetorusi zisecu-
 といって 行って 来た ことも おぼえてるし、 時節

da cidote anta kono undokai tokane man
 が ちがって あんた この 運動会 とかね、 まあ

roqko: joqteno undo:kaika he:kara roqko
 6校 寄っての 運動会か、 それから 6校

joqte kono ano nanjacja rensju:kaika
 寄って この あの 何だよ、 練習会(=学芸会)か

man sonna kotoo gaqko: no gjo:zi tosite
 まあ そんな ことが 学校の 行事 として

aqta monja sakaii: honna ima wakai sito
 あった ものだ から、 そんな いま(の) 若い 人の(ように)

joqte konna koto sitatokanen sonna kotoo
 集まって こんな こと(を) したとかね、 そんな ことは

anta zjenzjen nai monno un honna muka.....
 あんた 全然 ない もの、 うん そんな むかし)

konde man mukasito sennaranjaroo jonzju:-
 これで まあ むかしと しなくてはならないだろう、 40

nen karekore gozju:nenkara cjoqto tacu
 年 あれこれ 50年から すこし(多く) 経つ

moNja sakai uN
 ものだ から うん。

(2) いまの若いもの

S ho sitara aN imano wakai moNna orujaro aNcja-
 そしたら いまの 若い ものが いるだろう アンチャ

(11)
 Nna orujaro gaine aree nanka do:ka omowanke
 ンが いるでしょう。 あれは なにか どう(と)か 思いませんか、

nanka omo: kotoe nanka naike
 なにか 思う ことが なにか ないですか。

D imano wakai moNna
 いまの 若い もの(についてか)

S imano wakai sito oN
 いまの 若い 人のこと、うん。

D a: siawasena zise cuni in konde meumare toru-
 ああ しあわせな 時節に(なり) これで めぐまれてる

wato omote omo: waine uN hojaro
 わと (思っ) 思いますね。 うん そうだろう。

S uN mukasito kurabete donna tokoo joigan i
 うん、むかしと くらべて どんな とこが よいのに

naqt orune wakai moNna
 なってゐるね 若い ものは。

D maN riko: janen keqkjoku hojaro zibuN-
 まあ かしこいね。 つまり、 そうだろう、 自分

de zibuNno isio to: su cju: koto ga riko: ni
 で 自らの 意志を 通す という ことが かしこく

naqtagade naika siran mukaqsja anta
 なったので ないか しら。 むかしは あんた

ojano ju: nar i joro oja ga ko: ja tete ieb
 親の というままだろう。 親が こうだ と いえ

kimono icimaidemo ojano ju:mama hojaro
着物 1枚でも 親の いう通り、 そうだろう。

nani sitocu honna ojano hantai suru monno
なに ひとつ そんな 親の 反対 する ものを

ko:temo morowarensi morota kotomo nakaqta
買ってても 貰われないし、 (買って)貰った ことも なかった。

hosite hosii kimocinimo naranandajaro
そして 欲しい 気持ちにも ならなかっただろう。

imano kodomo minna konde man kaqtena muka-
いまの 子供は みんな これで まあ 気ままな(もので)、むか

sino monkara naameqtojaz o kaqtena kima-
しの ものから ながめるとだぞ。 勝手な 気ま

mana konde do ie joika atamaa joku naqte
まな、 これで どう いえば よいか、 頭が よく なって

riko:na kodomon i naqtoruaka sokoqa man
かしこい 子供に なってるのか、 そこが まあ

konde cjoqto handan cukanneN hojaro
これで ちょっと 判断(が) つかないね。 そうだろう。

kimamanaaka riko:naaka hojaro keqkjoku
気ままなのか かしこいのか そうだろう、 つまり。

S un oba:cjan motomoto oicini oqtaaine
うん、 おばあちゃん 元から 荻市に いたのですね。

D an oicuni umaretaai
ああ 荻市に 生まれたのだ。

S hu:N motomoto aqkona ucike
ふうん、 元から あそこの 家ですか。

D un aqkona ucija
うん、 あそこの 家だ。

S hu:N otoqcan⁽¹²⁾ otoqcanmo oideru
ふうん、 お父さん お父さんも おいでる。

D otoqcan jo:sini kitaqtaaja⁽¹³⁾
お父さん(は) 養子に 来られたのだ。

S hu:N hositara jaqpari oɕicine hitojaro
 ふうん、そしたら やはり 萩市の 人だろう。

D uN hojahoja oɕicuno hitojaredo horemo to:-
 うん、そうだそうだ。 萩市の 人だが、 それも ずっ

si oɕicini oran⁽¹⁴⁾zjaqtajaro wakai toqkja
 と 萩市に おられなかっただろう。 若い ときは

tabie detoqtaqtakeni
 旅へ 出ておられたから。

S hu:N hositaraaN cjoqko ju:qkuri sjabeqte
 ふうん、そしたら(=ところで) すこし ゆっくり(と) 話して

hosiine
 欲しいね。

D a:N ho:ka
 ああ そうか。

S oN hanasino tocju:jakedoon hurahura:qto
 うん、 話の 途中だが、 フラフラと

sjabeqtara nanka
 話すと なにか……

D aN ho:ka huN
 ああ そうか。 ぶん。

(3) レンゲ山の角力

S hositaraaN renɕejamano sumo: cju: monna
 そうしたら、 レンゲ(蓮華)山の すもう(角力) という ものは

jaqpa zu:qto mukasikara aqtaɕake
 やはり ずっと むかしから あったのですか

D zu:qto mukasikara aqtaɕai
 ずっと むかしから あったのだ。

S cinɕjai toki donna monjaqtaine
 小さい(子供の) とき どんな ものでしたか。

D oraqcjano kodomono zibunkara aqtagai mada-
オラッチャ(私)の 子供の ところから あったのだ。 まだ

mada se:daijaqtawane sumo:wane horega
まだ(もっと) 盛大でした。 角力はね。 それが

man gjo:zi hono siomacino⁽¹⁵⁾ gjo:zi man mukaq-
まあ 行事, その 志雄町の 行事, まあ むか

sja siomurajaqtane hono gjo:zino sitocu-
しは 志雄村だったね, その 行事の 一つ

to site kosite nanzjunen cuzuitoru monjara
と して こうして 何十年 つづいてる ものやら,

..... hjakunenmo cuzuitoqka horee siranzo
100年も つづいてるか それは 知らないぞ。

oraqcjano kodomono zibunkara ano sumoga
オラッチャの 子供の ところから あの 角力が

arugaja
あるのだ。

S mini iqta monke jaqpa
見に 行った ものですか、やはり。

D mini iqtawaine anta sju:no⁽¹⁶⁾ sumo: cju:ta-
見に 行ったですね, あんた。 子浦の 角力 といった

ra anta zu:qto jamano ho:kara mukasijazo.....
ら, あんた, ずっと 山(村)の ほうから, むかし(は)だぞ,

bento moqte minna anta sju:no sumo cju:tara
べんとう 持って みんな あんた, 子浦の 角力 といったら

se: monosu⁽¹⁷⁾oi se:daina monjaqtave⁽¹⁸⁾
盛(大)な, ものすごい 盛大な ものだったのです。

jamaakara bento moqte minna kitasinen
山村から べんとう 持って みんな 来たしね。

hosite minna anta hontoni sju:no smo:oma-
そして みんな あんた, ほんとうに 子浦の 角力を 待

cikane toqtawaine nanka jono gjo:ziga nai
ち兼ね ていたですね。 なにか(=なにも)ほかの 行事が ない

monja sakai hakuino sumo:ja sju:no sumo:ga
 ものだ から、 羽咋の 角力や 子浦の 角力が

kondene: monosuðoi minna kodomodemo wakai
 これでね、 ものすごい(=ものすごく) みんな こどもでも 若い

mondemo jorokonda monja
 ものでも よろこんだ ものだ。

S hu:N jo: an tokiniin cjawaNuritoka honna
 ふうん、 よく あの ときに 茶碗売りとか そんな

mon kitoqtarone
 もの(が) 来ていただろうね。

D kitoqtage mukasikara cjawaNuri cjawaNurito
 来ていたのです。 むかしから 茶碗売り 茶碗売りと

karakasaurija hosite zu:qto anta aqkoø
 からかさ売りが。 そして、 ずっと あんた あそこは

cjawaNuridemo takusan kitene karakasaja-
 茶碗売りでも たくさん 来てね。 からかさ屋

ja cjveø takusan aru monno ima karakasa-
 だ といえば たくさん ある から(=来ているから), いま からかさ

uridomoo mitai cju:temo naijaro minna
 売りなどは 見たい といっても ないだろう。 みんな

ko:morigasaja sakai un
 こうもりがさだ から、 うん。

S hu:N hositara minna ko:taqta monjarone
 ふうん、 そうしたら みんな 買われた ものだらうね、

cjawaNo
 茶碗を。

D minna ko:tawane anta karakasaðurai anta
 みんな 買ったですね、 あんた、 からかさなど あんた、

icinen sasugaø ko:gaicja hojaro hositara
 1年(間) さす(使う)のを 買うのだよ、 そうだろう。 そうしたら

hitorini iqkaizucu minna konna konna gaqko-
 ひとりに 一本ずつ、 みんな こんな こんな(小さい) 学校

no kodomoø mo:suni ojobazu man hontoni hi-
の こどもは 申すに およばず、 まあ ほんとうに ひ

tokazukizucu⁽¹⁹⁾ minna zju:nin oreø hontoni
とかずきずつ、 みんな 10人 おれば、 ほんとうに

ziqpon ko:ta monzja ucira⁽²⁰⁾ un ima kono
10本 買った ものだ、 うちなど(では)。うん、 いま この

ko:moriøasani naqtekara kasaurimo konsi
こうもりがさに なってから、 からかさ売りも 来ないし、

zenzen honna ko:hicujo:mo iran nandoki-
全然 そんな 買う 必要も 要らない。 何時

demo kawareru sakai hairone
でも 買われる から そうだろうね。

S un motomotoø dokojarani ano sitani aqtaðane
うん、 元元は どこやらに あの 下に あったのですね。

D dokoni
どこに。

S jonejamaro jokono ucine ano jomono ano
米山の 横の 家ですね、 あの 横の あの

hirobani
広場に。

D mukasikara asokoja
むかしから あそこだ。

S hu:n ima anmari hositara se:daide naijaro
ふうん、 いま あまり そうしたら 盛大で ないだろう、

ano aremo
あの あれも。

D ima se:daide nai hosite cjoqto ko:ko:zumoga
いま 盛大で ない。 そうして ちょっと 高校角力が

icinenmo ninenmo haiqtajaro icinenka
1年も 2年も 加わっただろう。 1年(だった)か、

arekaranen taisita kotoø naijaro sorekara
あれからね、 たいした ことは ないだろう。 それから

kono rjoko: rjoko: tete takusan detekita
この 旅行 旅行 どれくらい たくさん はやって来た

sakaija

からだ。

S uN wasiramoo⁽²¹⁾ ci:sai toqkja sumo:ə omoqsjo-
うん、ワシラも 小さい ときは 角力は おもしろ

kaqta waine minna miseə: takusan kitoqtasi
かった、 ですよ。 みんな 店が たくさん 来ていたし、

hairo cjawaNuritoka anna mon ko:takedo
そうだろう(=ね) 茶碗売りとか あんな もの 買ったが (いや)

mitoqtakedo hojaro
見ていたが、 そうだろう(=ねえ)。

D ima taisita monna oranjarō na:⁽²²⁾ sju:no
いま これはという ものは (来て)いないだろう。 なにも 子浦の

sumo:ja tete na:⁽²³⁾ iku himo aqsi ikan toki
角力だ といって(も) なにも 行く 日も あるし、 行かない とき、

ikan tosimō aruwa ucinimo
(いや)行かない 年も あるわ、 (私の)家でも。

S uN nanka cujoi somotoridemo oqta monkane
うん、 なにか 強い 角力取りでも いた ものですか、

siono sumotoqrja
子浦の 角力取り(に)は。

D honde zimotoni oqta sakaide naika hono
それで 地元 いた からで ないか、 その

honzjo:sanjanō he:kara ano ima hakuini
ホンジョウさんだの、 それから あの いま 羽昨に

kitajama cju: hito sumo:torijaro hojaro
キタヤマ(北山) という 人(が) 角力取りだろう。 そうだろう

he:kara hjo:doni otoma cju: hitojano honna⁽²⁴⁾
それから 兵庫に オトマ(音ま)という 人だの、 そんな

hitorada oqta waine hono zimotoni taniarasī-
人たちが いた ですね、 その 地元 夕ニアラシ(谷

no
嵐)の……

S kiNzomaka
キンゾウマ(金蔵ま)か。

D kiNzoma …… aqkojaro honde koNdee: sumoθa
キンゾウマ, あそこだろう。 それで これで 角力が

se:daini naqtoqtagade naika sibirakune:……
盛大に なっていたので ないか, しばらく(の間は)ね。

mukaqsja aqcinimo sumo: koqcinimo sumo:
むかしは あちらにも 角力, こちらにも 角力,

ima anta sonna siro:tono sumo: mirujori
いま あんた そんな 素人の 角力 見るより(も),

anna antane: riqpana sumo: miru monja saka-
あんな あんたね, 立派な 角力を 見る ものだ から,

ie: na: N siro:tono sumo: domo mondaide nai-
すこしも 素人の 角力など 問題で ない

ade naika siran …… un
ので ないか しら, うん。

S hositara jaqpa sjazikidemo jaqpa kNdee:
そうしたら やはり (角力の)さじきでも やはり 組んで,

annaθa jo: kuNdaqrarowaine
あんなの(が) よく 組んであるでしょう。

D sanziki kNde aruwaine ne: anta sjo:daiken
さじき(は) 組んで ありますよ。 ねえ あんた, 招待券(を)

kibaqte kihusite takusan morota uciwa
くばって(貰って), 寄附 して たくさん (寄附を) 貰った 家は

cjanto aqkoe sanziki adete hojaro …… hosite
ちゃんと あそこへ, さじき(に) 上げて, そうだろう。 そうして

minna taiθu sita monjacja
みんな 待遇 した ものだよ。

S hu: N hositara sumo: ni kaqtara siono oNmjasa-
ふうん, そうしたら 角力に 勝ったら 子浦の お宮さ

Ne ikugainen
んへ 行くのだね。

D ho:ja ho:ja omacuri site
そうだ そうだ、 おまつり して。

S gohe:ka nanka moqte
ごへいか なにか 持って。

D gohe: kazuite ho:suqcju:to hono sono
ごへい かついで、 そうするというと その その

kaqta tokoo⁽²⁵⁾ man kondo hanazumo: tete hana-
勝った ところは まあ これで ハナ角力 といって、 ハナ

zumo: sitari ande jo: jowaqtaai minna
角力(を) したり、 あれで よく 困ったのだ、 みんな

hanazumo: suru toqkja mata kihujaro:o tenu-
ハナ角力 する ときは また 寄附 だろう。 手ぬ

guidemo hurusikidemo minna konde kibaqte
ぐいなり ふろしきなり みんな これで くばって

kuqsakai hono burakuno nanto ju:temo cuzui-
来るから、 その 部落の(→部落は) 何と いても つづい

toqsii: ho: surucju:to koqcini cianto site
ているし、 そう するというと こちらに(→こちらで)きちんと して

minnaan aennaranaine honna mon moro:-
(世話を)見なくてはならない、(何かを)あげなくてはならないでしょう。そんな もの(を) 貰っ

ta okaesini
た おかえしに。

S honde ano ano anoo dandarasakano aqkoni
それで あの あの あの ダンダラ坂の あそこに

aqtaa nanjaine
あったの(は) 何ですか。

D asoko hanazumo honzjosan doqkano seki toq-
あそこ(は) ハナ角力、 ホンジョウさん(が) どこかの (角力の)関を取っ

tee hosite hanazumo sitaairo (S ho:N)
で、 そうして ハナ角力(を) したのだろう。

keqkjoku on
つまり、うん。

S hu:N hositara taniarasino taniarasite ju:ta
ふうん、 そうしたら タニアラシの タニアラシと いった

sumo:nanka heja mitaina mono aqtaðane
角力(取り)は なにか 部屋 のような もの(が) あったのですか。

kobundomoe oqtaðake
子どもは いたのですか。

D sa: kobundomoe taisita oraṇṇade naika siran
さあ 子どもは 大した(ものが) いないので ないか しら。

S hondemo kinzoma kinzoma……
それでも キンゾマ キンゾマ ……

D ju:taða dekai konna hitoja curanukino
(と)いったの(は) 大きい こんな 人だ。 ツラヌキの

otoqcanmo sumo:torijaqtazo deqkai hono
オトツァンも 角力取りだったぞ。 大きい その

hitokoso sumo:torijaqtawa jeno honzjosan-
人こそ 角力取り(にふさわしい人)だったわ。 ほかの ホンジョウさん

raqcja asimotoemo ikan
たちは 足元へも およばない。

S hu:N jaqpa kobunka nanka oqteðane
ふうん、 やはり 子分か なにか おられるのですか。

D ande oqtaðajaroðai kokono minna honne hjo:-(26)
あれで(まあ) いたのだろうよ。 この みんな それね 兵

ðono otomajano ano honzjosanjano minna
庫の オトマだの、 あの ホンジョウさんの、 みな

ande taniarasino kobunni naqtoqtaðaka
あれで タニアラシの 子分に なっていたのか。

hono curanukino kobun ju:tara taniarasida
その ツラヌキの 子分 (と)いったら タニアラシが

naqtoqtaðaka
なっていたのか。

S hu:N honnara taniasino kobunni mata oq-
 ふうん、それなら タニアシンの 子分に(→子分が)また いる

cju wakeja hojaro
 という わけだ、 そうだろう。

D ho:suree ano honzjosanra naqtoqtaajaroai
 そうすれば あの ホンジョウさんら(が) なっていたのだろうよ。

..... uN
 うん。

S honnara aqkoni sekihimitaia taqtorujaro
 それなら あそこに 石碑のようなものが 建っているだろう、

ano
 あの.....

D are: taniasijaro
 あれは タニアシだろう。

S taniasika are
 タニアシか、 あれ。

D curanukinoamo taqtorujaro
 ツラヌキのものも 建っているだろう。

S hontoke curanukino namae nanjaine aree
 ほんとうですか、 ツラヌキの 名前(は) 何ですか、 あれは。

D curanuki tete ima naqtoruu
 ツラヌキ と いま なっている。

S sumo: torino namaeaa
 角力取りの 名前が(ですね)。

D uN curanuki
 うん、 ツラヌキ。

S bukuo anna do:site anna tokoni isino man
 ボクは あんな どうして あんな ところに 石の まあ

sekihi taqtoru sumo:tori.....
 石碑(が) 建っている、 角力取り.....

D rennejamano tokode (S uN uN) han aqkoni
 蓮華山の ところで、 はあ あそこに。

S hu:N areə nanka do:ja siNda monde taqtoruθa-
 ふうん。あれは なにか。 どうだ、 死んだ ものだから 建っている

(27)
 kai sekihike ande kinenke
 のか (あれは) 石碑ですか、 あれで 記念ですか。

D ano karatojamae ikuto minna sumo:torino
 あの 唐戸山へ 行くと、 みな 角力取りの

sekihiθa taqtoruθaine are siNdekara
 石碑が 建っているのだね。 あれ 死んでから

tateta monka ikittoqteno aidani tateta monka
 建てた ものか、 いきておられる 間に 建てた ものか、

soreə wakaran hairo
 それは わからない。 そうだろう。

(4) 小さい時の小づかい銭

S oba:cjanra hoN toki ciNcjai tok: ikurahodo
 おばあちゃんら、 その とき、 小さい とき どれほど (小づかいを)

morote iqtoqtaine tada mitoqtaθake
 貰って 行っていましたか ただ 見ていたのですか。

D sumo minika
 角力 見にか。

S uN goziqsenka nanka kanedemo moroteqta mon-
 うん、 50 銭か。 なにか 金でも 貰って行った もの

ke
 ですか。

D anta goziqsendomo morawanjaroθaine hoja-
 あんた 50 銭なんか 貰わないでしょう、 そうだ

ro: (S uN)
 ろう。

I goziqsen daimaija monne
 50 銭 (は) たいへんだ ものね。

D daimaija ucinoō: to:cjanraa: zinzjolu
たいへんだ。 家の 父ちゃんらは 尋常

jonenka sannennō toki wakurae iqtadai sju:—
4年か 3年の とき 和倉(温泉)へ 行ったのだ、 修

gakurjoko:ni okaneo zju:gosenjaqta toine
学旅行に。 お金を 15銭 だった というね。

..... ora⁽²⁸⁾aine (S oN oN) hositarane: gosjeN
オラがだね。 そうしたらね 5銭

gosjeN ano ojuo ko:te kitasi zjuqsen
5銭 あの お湯を 買って 来たし、 10銭

mameame ko:tara cuko: okaneda nakaqta toine
豆飴を 買ったら、 使う お金が なかった というね。

..... jo: honna koto ju:te o:warai surugai
よく そんな こと いて 大笑い するのだ。

S honna koto surja macurina mada nannaN
そんな こと すれば、 まつりは まだ いやいや、

horekosa: zjuqsen nara zjuqsen guraijane
それこそは、 10銭なら 10銭ほどだね。

ju:te mirja sukunakaqta
いて 見れば すくなかった。

D oraqcjano toqkja ja: ziqsendomo morawan gade
わたしらの ときは いや 10銭なんか 貰わないので

naike gosjeNmo morotaka man sekino jama
ないですか 5銭も 貰ったか まあ、 せいぜい

ziqsenmo morota monkane ano wasuremo senga
10銭も 貰った ものかね。 あの 忘れも しないが、

(S uN) ko:to icinenka ninenno toki tojama—
高等(小学の) 1年か 2年の とき 富山

nii: hakurankaija aqtawai (S uN) nanaziq—
に 博覧会が あったわい。 70

senja cigai kwaihi aman kisjacinkara
銭だ というのだ、 会費(が) あ、まあ、 汽車賃から、

nankara nanno hositaraku monna oranan-
なにから、 何の(ことはない) そうしたら 行く ものが いなかった

dazone (S ho:N) oraqcjamo ikaN oraqcjamo
ですね。 わたしらも 行かない、わたしらも

ikaN cju:tagai nanaziqsende
行かない といったのだ 70銭(のこと)で。

S imani sureo deqkai kaneja cju wakejane cjo-
いまに すれば 大きい 金だ という わけだね。 ちょ

qto tee: denanda cju wakejarone honna dekai
っと 手が 出なかった という わけだろうね、 そんな 大きい

kane
金(では)。

D hono kodomoni omokio oitorangade nakaqtaka
その、 子供に 重点を おいていないので なかったか

siraN mukaqsja imawa kodomoo konde dai-
しら、 むかしは。 いまは 子供を これで 大

zini site sodateru ziseqcjaredo mukaqsja
事に して 育てる 時節だが、 むかしは

anta kodomoo tada tabesaite honna taisita
あんた、 子供を ただ たべさせて、 そんな 大した

kjo:ikumo sugcju kotomo nasi (S un) tada
教育も するという ことも なし、 ただ

sodaqtadade naike konde hondemo era:i
育ったので ないですか これで、 それでも 偉い

benkjono dekiru sita: dekitasi dekin monna
勉強の できる 人は できたし、 出来ない ものは

dekinandagajakedo anta tokono otoqcanra
出来なかったのだが、 あんた ところの お父さんら(は)

monosudoi sju:saijaqtazo hontoni
ものすごい 秀才だったぞ、 ほんとうに。

S nan ju:torudaine
なにを 知っているのですか。

D oraqcja saNsu: naraini iqte do:kjuse naḡaja
 わたしらは 算数 習いに 行って 同級生 なのだ、

kono hitono otoqcanto orato hositewa saNsu
 この 人の お父さんと わたしと、 そうしては 算数

naraini iqtewaaN osiete moqtawaine (S hu:N)
 習いに 行つては 教えて 貰つたですね。

(5) お祭りのこと

S hositara ho:zija hondake jaqpaa ano: ninḡ-
 そうしたら (寺の)法事は それだけ やはり あの にぎ

wasikaqtakedo macuqrja donna monjaqtaine
 やかだったが、 祭りは どんな ものでしたか。

D macurimo jorokondawaine
 まつりも うれしかったですね。

S oḡicino macuri taisita kotoḡ naijorogaine
 萩市の まつり(は) 太した ことが ないでしょうね。

D hoja mukasikara ano torijaro ima mitaiḡairo
 そうだ むかしから あの 通りだろう、 いま みたいのだろう。

S siono macuqrja jaqpa omoqsjoigade naiḡakai-
 子浦の まつりは やはり おもしろいので ないのです

ne oḡicini kurabereḡ
 か、 萩市に くらべれば。

D omoqsjoi tete anta sisimaiḡa oi sakaijaroḡa-
 おもしろい といって あんた 獅子舞いが 多い からでしょう。

ine hojaro
 そうだろう。

S uN (D uN) waqsja siri cundaqte iqtaḡaikedo
 うん、 ワシは 尻(に) つれだつて 行つたのだが

oḡicino macuqrja honna cundaqte
 萩市の 祭りは そんな つれだつて.....

D aruku hodone oran monno (S on) anna monna
歩く ほどに いない もの。 あんな ものは

kodomo no sisimai dakejaro: o (S on) hosite
子供の 獅子舞い だけだろう。 そして

na: N honna taisita kotomo nai gaisi ne
なにも そんな 大した ことも ないのだし、 ね。

(S un) hojarone
そうだろうね。

S honnara mukasikara jaqpa amejano uee aqaq-
それなら むかしから やはり 飴屋の 上へ あがっ

toqta monke ano aree
ていた ものですか、 あの あれが

D mikosusanka (S on) hontono mukaqsja aqa-
み興さんか。 ほんとうの むかしは あが

ranandaredo ande hojane jaqpa aqarikakaqtaqa
らなかったが、 あれで そうだね やはり あがりはじめたの(は)

dondake hodo tacuka siran ako zu:qto huzino
どれだけ ほど 経つか しら。 あそこ ずっと 富士の

jamani sitene denkide (S hun) okajamano
山に してね、 電気で。 岡山

otoqcanra oqteno toki jaqtawane ano zibunni
お父さんら(の) おられる ときでしたね、 あの ころに

ano zu:qto tasjokara mierugani site denkide
あの ずっと ほか(の部落)から 見えるのに して 電気で

huzisan no kono kataci sitene hutari site
富士山の この 形(を) つくってね、 二人 で

keqko se: daini sitoqtaqaja ima na: N honna
かなり 盛大に していたのだ。 いま なにも そんな

koto sjento
こと しないで。

S okajamano ozizi obaba tokonone
岡山のおじいさん、おばあさん ところのね。

D obabano ozizi
おばあさんの おじいさん(オババの主人)。

S ozizine
おじいさんね。

D un ano hitoo ginko sitoqtaqta zibunni wakai
うん、あの 人は 銀行(を) しておられた ころに、 わかい
tokine (S ON) cianto hono huzisan koqsja-
ときね ちゃんと その 富士山(を) こしら

etene donna kireni site aqtacja
えてね、 とても きれいに して あったよ。

S motomoto hositara jaqpa aqkoø aḡaranaḡaḡane
元元(は) そうしたら やはり あそこは あがらなかったのね、

saisjoo ano
はじめは あの。

D aḡaranaḡaḡai hun akibasan aqtaḡajaredo
あがらなかったのだ。 ふん アキバ山(秋葉社は) あったのだが、

hazime aḡaranaḡaḡaja ci:sai konna odo:no
はじめは あがらなかったのだ。 小さい こんな お堂の

akibasanjaqtaḡai ima annaḡani tatetajaro
アキバ山だったのだ。 いま あんなのに 建てただろう、

cjoqto o:kiḡani (S ON ON) cincjai honto-
すこし 大きいのに。 (はじめは) 小さい ほんと

nii: akibasanjaqta
うに アキバ山だった。

S obaba⁽²⁹⁾ mukasimo kawara⁽³⁰⁾ to:cjan nanmo⁽³¹⁾ ano
オババ むかしも カワラ 父ちゃん(ほかは)なにも(せず)あの

kantanna sisimai jaqtoqtaḡake
かんたんな 獅子舞い(を) やっていたのですか。

D sisimaika (S ON) ON areø areøte arejaḡai-
獅子舞いか。 うん アレァ アレァと(いう)あれだよ

ne miqtoko naijarogaine
ね 見るところ(は) ないでしょうね。

S na:N zenzen miqtoko naisii: mukasikara aimo
なにも まったく 見るところ(は) ないし、 むかしから すこしも

kawarazu gen⁽³²⁾ma itokaa: anna tada genma itoka
かわらないで グンマイとか、 あんな ただ グンマイとか

sin⁽³³⁾ma itoka nanka macurino hurikata arujaro-
シンマイとか なにか まつりの 舞いかた(が) あるで

uaine (D uN) mukasikara jaqpa anna uaine
しょう。 むかしから やはり あんなのだね。

D mukasikara narote kaeru cju: kotomo nasi
むかしから (どこから) 習って 帰る という ことも なく、

ano mamani site mukasino torini jaqtoru uai
あの ままに して むかしの 通りに やっているのだ。

(S hu:N) uN
うん。

S misedemo jaqpa kita monke siotaqkakane
店でも やはり 来た ものですか。(来たのは) 子浦だけかね

D mise uqrja onmjasanno huci..... (S dakeke
店 売りは お宮さんの ふち..... だけですか。

(hu:N) honna taisita kotomo naicja kokorane
ふうん。 そんな 大した ことも ないよ、 このあたり(は)ね。

S uN hositaraa: macurijori sumo:no hoe omoq-
うん、 そうしたら、 まつりより 角力の 方が おも

sjokaqtade naia kaine
しろかったので ないのですか。

D hoja hoja sumo:ə omoqsjoiwaine
そうだ、 そうだ。 角力は おもしろいですね。

S ne: (D uN) wasirani sitaqte macurijori
ねえ、 ワシラに しても まつりより

sumo:no hoe omoqsjokaqtasine
角力の 方が おもしろかったしね。

D hojarone hakuino sumoni iqta monja mukasi
そうだろうね。 羽咋の 角力に 行った ものだ、 むかし(は)

(S uN) beNto moqte (S uN) hosite minna
べんとう(を) もって、 そして みな

asa nanka imamitai baqsie aru koqcja nasi
朝 など いまのように バスが ある ことは なく、

(S uN) minna aruita monja
みな 歩いた ものだ。

S ho:jane jaqpa siono ho:zijori⁽³⁴⁾ jaqpa hakuino
そうだね。 やはり 子蒲の 法事より やはり 羽昨の

ho:zie omoqsjokaqtasine
法事が おもしろかったしね。

D omoqsjokaqta
おもしろかった。

S cjoqto mata uejaqtasine
すこし また (羽昨は) 上だったしね。

D so:ja so:ja honde hon-toni mukasi tete tai-
そうだ そうだ。 それで ほんとうに むかし というと、 大

sita k-tomo kondene tanosimimo nakaqta³aja
した ことも これでね、 たのしみも なかったのだ。

(S uN) ima tosijorimo wakai monmo rjoko:
いま 年寄りも 若い ものも 旅行

rjoko: tete hon-toni konna tanosimina sjaba-
旅行 といって ほんとうに こんな たのしみな 世の中

ni cjoqkodemo oranja donnaranto omotoru³aja
に すこしでも (生きて) いなくては どうにもならないと 思っているのだ。

(S uN……) sinaren cigai …… mukasikara mirja
死ねない というのだ。 むかしから 見ると

karada³ minna rakujasine (S uN) mukaqsja
体が みな らくだしね。 むかしは

minna hatara itaredo ima hon-toniin rakuna
みな 働いたが、 いま ほんとうに らくな

konna z+secuni narimisitene⁽³⁵⁾ (S uN)
ごんな 時節に なりましてね。

(6) お寺の法事

I honnara ho:zini honnara ano monoo urini
 それなら 法事に、 それなら あの ものを 売りに

kitanowa karakasatoka sonna donna jona mon
 来たのは からかさとか そんな どんな ような もの(を)

urini kita mondesuka macuri ano sumo:no
 売りに 来た ものですか、 まつり あの 角力の

tokimo
 とき(で)も。

D a: sumo:no toki cjoqto ande nandesudaine
 あ、 角力の とき ちょっと あれで 何ですね、

jasimitai monmo kitarine he:kara ano cjava-
 ヤシのような ものも 来たりね。 それから あの 茶碗

Ndesjo omona monga cjava nto karakasa he:ka-
 売りでしょう、 おもな ものが 茶碗と からかさ、 それか

ra ano: konde minna hojane:
 ら あの これで みな そうだね。

I karacumondesuka
 からつものですか。

D karacumon karacumonno mise ga ande iciban
 からつもの、 からつものの 店が あれで いちばん

kurugadesu
 来るのです。

S zju:mo nizju:mo kitoqtane hidoi toqkja
 10も 20も 来ていたね、 ひどい ときは。

D an ho:siqcju:toon horemojasi icinenzjuno
 あ、 そうするというと それもだし、 1年中の

karacu cju: wakede nakeredomo man ocjawan
 からつ という わけで ないが、 まあ お茶碗

cju monna wareru monja sakai tete gohanzja-
 という ものは 割れる ものだ から といって、 ご飯茶

wankara nanmo kanmo minna ko:tewa (S uN)
腕から なにも かも みな 買っては、

hosite rainenno sumoni naqcjuto mata kima-
そうして 来年の 角力に なるという と また 来ま

sjone: ho:siqto mata ko:ɖadesucja..... karaka-
しょうね、 そうすると また 買うのですよ。 からか

samo sono torija (nanja ciɖai) (35b) konde ande
さも その 通りだ、 (何だ というのだ) これで あれで

kudamonkara okwasi mitai monkara kodomono
くだものから、 お菓子 のような ものから、 子供の

omocja mitai monkara zu:qto naraɖadesu
おもちゃ のような ものから ずっと 並ぶのです。

S hanɖirejamo kitoqtaɖade naiɖakaine kaɖire
端切れ屋も 来ていたので(は) ありませんか、 端切れ

mitai monmo ne
のような ものも ね。

D un kitoqta nandemo konna iruijarone
うん 来ていた 何でも こんな 衣類だろうね。

S on on mukaqsja nanzja ano karakasaja kara-
うん うん むかしは 何だ、 あの からかさ屋、 から

kasato karacumonna jaqpa o:kaqtane
かさと からつものは やはり 多かったね。

D iciban o:kaqta
いちばん 多かった。

S ima nanzjara ano:N anon ninɖjotoka omocja
いま なにやら あの、 あの 人形とか おもちゃ(が)

takusan aqkedo mukaqsja cjawanuri baqkarija-
たくさん あるが、 むかしは 茶碗売り ばかりだ

qtane
ったね。

D cjawanuri baqkari
茶碗売り ばかり。

S horeo dokono hitojaqtawaine
それは どの 人だったですか。

D ano hitora komacuno komacukai aqkoə dokojai
あの 人た(は) 小松の, 小松かな, あそこは どこだな,

ima cjawan uqtoqtoko
いま 茶碗 売っているところ(は)。

S terai
寺井。

D teraika ande teraino ho:kara siirete kuru-
寺井か。 あれで 寺井の 方から 仕入れて 来る

gade naika siran
ので ないか しら。

S hu:N areə omoqsjokaqtawane mitorudakade
ふうん あれは おもしろかったです, みているだけで。

D mitoruto omoqsjotene ikurani site sutete
見ていると おもしろくてね。 いくらに して 捨てて

makete jaru makete jaru tete ju:tewa seru-
まけて やる まけて やる と いったは 競る

gada donna omosirotewa kawanto tada sore
のが どん(に) おもしろくては, 買わないで ただ それ(を)

mitoqtaɰadesuɰaine hun
見ていたのですよね, ふん。

S imademo mukasi mukasino mamano hitoə kito-
いまでも むかし むかしの ままの 人が 来て

qtejane oracino cincjai tokino hitodemo
おられるね, わたしらの 小さい ときの 人など。

D hoja hoja dandan toqsja iqtaredo (S on)
そうだ そうだ。 だんだん 年は いったが,

mukasino hitojawane (S un) na:N konna
むかしの 人だわね。 なに こんな

anta inakadeq sakaii: anna kore tete ju:te
あなた いたかです から, あんな これ と いった

toqte naNsuruno kotohodono monmo nasi
取って どうするの(という) ことほどの ものも なし。

S un oba:cjanraqcja ano cincajai tokini jo:
うん, おばあちゃんらは あの 小さい ときに よく

honna ho:zidemo macuridemo iqtoqtajarone
そんな 法事でも まつりでも 行っていたらうね。

(D hun) man mukaqsja minna kimono kite:
まあ むかしは みな きもの 着て。

D minna kimono kite sodeno kimono naða:i
みな きもの 着て, そでの(ついた)きもの 長い

sodeno kimono kite soreða uresikaqta ða
袖の きもの 着て, それが うれしかった の

desjo
でしょう。

S jaqpa ii kimon kitadake icumojori
やはり よい きもの 着たのですか, いつもより(も)。

D joi joi anta ima: gaqkoe iku kodomoø cjan-
よい よい, あんた, いま 学校へ 行く 子供は ちゃん

to nandemo hudanno mamamitai monjaro (S on)
と 何でも 平常の ままのような ものだらう。

mukaqsja anta nanja ðaine sjo:sjozijosikito-
むかしは あんた, 何だ よね, 証書授与式と

ka tencjo:secutokani naqcju:to minna man
か 天長節とかに なるというと, みな まあ

konna mukasino moncuki hairoo moncuki moq-
こんな むかしの 紋付, そうだろう, 紋付 持っ

toru hitowa moncuki kiru hucu:no kimonodemo
ている 人は 紋付 着る, 普通の 着物でも

tansuni simo:te aruðao honna hudanno mamani
タンスに しまって あるのを そんな ふだんの ままに

ikucju: kotoø zjenzjen nakaqtasakai hosite
行くという ことは まったく なかったから, そうして

hakama haitejazo
はかま はいてだそ。

S horeo honna ho:zino tokidemone (D aan)
それは そんな 法事の ときでもね、

ho:zino tokja donna monjaine
法事の ときは どんな ものですか。

D ho:zino toqkja sodeno kimono kiru gaine
法事の ときは 袖の 着物(を) 着る のです。

S aan sodeno kimono kiruga
ああ 袖の 着物(を) 着るの(ですか)。

D gaqkono toqkja minna cjanto honna nanjacja
学校の ときは みんな ちゃんと そんな 何だよ、

sikenno toqkja tansukara daito kimono kite
試験の 時は ダンスから 出して 着物(を) 着て

ikugai (S hu:N) hono ho:zino toqkja kimo-
行くのだ。 その 法事の ときは きも

no kiru gaga uresikaqta gajarcwai ne:
の 着る のが うれしかった のだろうよ ね、

(S u:N) macurito ho:zi
まつりと 法事。

S un bonodoqrja donna monjaqtaine
うん 盆おどりは どんな ものだったですか。

D bonodorimo mukasikara ano to:ri sje:daina-
盆おどりも むかしから あの 通り 盛大なの

gaja
だ。

S en ima nanka anmari sabirete mo:torujaro
え いま なにか あまり(に) さびれて しまっているだろう、

bonodori
盆おどり(は)。

D ima konde sabiretorujaro horega jono nande-
いま これで さびれているだろう。 それが ほかの なんて

mo miru monkara⁽³⁶⁾ aru monde bonodorimo mini
も 見る ものが ある ものだから、 盆おどりも 見に

iku monna joke oranjaro (S un) sonde
行く ものは あまり いないだろう。 それで

sabireru gade naika siran
さびれる ので ないか しら。

S aree nanja siono miqcaodori⁽³⁷⁾ kaine
あれは 何だ。 子浦の ミクサおどり ですか。

D mikusaodori tokatetene: jakamasi ju:taredo
ミクサおどり とかといってね やかましく いったが。

S jaqpa undozjoni jaqtoqta gajaro
やはり 運動場に やっていた のだろう。

D siran mini ikan monno
知らない 見に 行かない もの(=から)。

S a: so:ka hu:N
あ そうか、 ふうん。

D hon-ton: oraqcja mitai nenpaino hitora odori
ほんとうに わたしら(の) ような 年輩の 人たち(は)、 おどり

sukina hitoga hon-toni minna mukaqsja odoq-
好きな 人が、ほんとうに みな むかしは おどっ

ta monja (S hu:N) oraqcjano kot'a: hore
た ものだ。 わたしらの ことは それ(を)

kiraija monno (S hu:N)
きらいだ もの(=から)。

(7) オラツチャ(わたしら)・ヤーヤ(母)など

S o:ja ojasanno ka:cjanna mada zuqto ueke
オーヤ、 オーヤさんの かあちゃんは (年は)まだ ずっと 上ですか。

D o:jasanno ka:cjan hicizju:icija (S hu:N)
オーヤさんの かあちゃん 71だ。

oraqaja rokuzjuroku jaro hon toni kor ecju:
わたしら 66 だろう。 ほんとうに これという

toritomeno nai konnane kokorano nanjasakai
とりとめの ない こんなね ころら(あたり)の なんだから、

kotobazukaija mukasikara mitree monosugoi
ことばづかいは むかしから 見ると ものすごく

ki re: ni naqtasine kokoro
きれいに なったしね、 ここ(は)。

S un anmari okasii kotoba iwanne
うん あまり おかしい ことば いわないね。

D iwan
いわない。

I honnara mukaqsja anmari mukasi ano katanai-
それなら むかしは、 あまり むかし、あの きたない

jo: na cjuimasuka hazukasi ijo: na kotobani
ような といいますか、 はずかしいような ことばに

donnajo: na kotoe aqta mondesuka
どんなような ことが あった ものですか。

D kotobadesuka (I een) hodesune ci docju
ことばですか。 そうですね 「違う」という

kotoo mukaqsja no kotobade nanmoja tete
ことを むかしは、 (昔)の ことばで ナンモだ といひ

beqcjawane nanmoja ne: (S un) beqcja dai-
ベッチャです、 ナンモだ ね ベッチャ です

ne tete koi dai nanmojawane tete
(40) と こういうのだ、 ナンモです と。

S wasirademo nanmoja cju: ne
ワシラでも ナンモだ というね

D jaqpa ju: ke
やはり いますか。

S oba: cjan iqpiki iqpiki cjuwanke
(41) おばあちゃん イッピキ イッピキ といひませんか。

D iqpiki ju:aine

イッピキ(と) いうのです。

S nandemo iqpikijaro

なに(に)でも イッピキだろう。

D un ho:suqcju:to konoon jamasuro bene iku
うん、そうするというと この 山代(温泉の) あたりへ 行く

cju:to warawareru jajacja anoon notono oba:-
という と 笑われる のだよ。 あの 能登の おば

cjan iqpiki iqpiki cju:tete nandemo iqpiki-
あちゃん イッピキ イッピキ というといっ 何でも イッピキ

ja cju:tete warawareru aja
だ というといっ 笑われるのだ。

S hu:N sakanadakenarane honde wakar uaikedo
ふうん、魚だけならばね、それで 分る のだが、

ato kodomodemo to:qtari mono iqpiki cju:-
ほかの 子供でも 通ったり(すると)、もの イッピキ といっ

tarine:

たりね。

D iqpiki iqpiki ju: tokodesita ai ima anta
イッピキ イッピキ という ところでしたよ。 いま あんた

honna kotoba kawaqte monosuoi imano wakai
そんな ことば 変って ものすごい。 いまの 若い

hitora haikarana ade kotoba ju:toru aike-
人た(は) ハイカラな、ので、ことば(を) いづている のだ

do (S huN) oraqcja oraqcja tete oraqcja
が、 オラッチャ オラッチャ といっ わたしら(は)、

watasidomo gaqkoe dete wata si watakusi
ワタシ(というの)など(は) 学校へ 出で ワタシ ワタクシ

tete ande honni narota jajarowane honzjaredo
と あれで ほんとうに 習った のでしょう。 そうだが

mukasino kotobano mamani oraqcja tete wata-
むかしの ことばの ままに オラッチャ と ワタ

si tete ju:te ande kaete ju:joni naqtaŋa
シ と いて、 あれで 変えて いうように なったの(は)

a:a konde nanjaro ŋaine oraŋcŋano hatacu
あ これで なんてしょう、 わたしらの 20才

zubunno toŋkara watasini naqta ŋakane:
ころの ときから ワタシに なった のかね。

(S hu:N) joi ucino hitoŋ watasidemo ju:to-
よい 家の 人は ワタシなど いて

qtazo (S on) kono hucuno iqpan kate: to
いたぞ。 この 普通の 一渡 家庭 と

sitewa oraŋcŋa oraŋcŋa cju:toŋta hojaro
しては オラッチャ オラッチャ といっていた、 そうだろう。

S wasirademo ju:ne (D un) oraŋcŋate imademo
ワシラでも いうね。 オラッチャと いまでも

ju:waine
いますよ。

D huN honzjaredo konna toŋsjoŋrja ikura toŋ-
ふん、 そうだが こんな 年寄りはいくら 年

sŋoridemo watasi watasi tete oraŋcŋa hokae
寄りでも ワタシ ワタシ と(いうのは)わたしらは ほかへ

iku cju:to hazukasite honna koto juwarento
行く というと 恥ずかしくて そんな こと(は) いまないと、

mukasino mama oraŋcŋa: cju:te ora oruwaine
むかしの まま(に) オラッチャ といっって わたしは 居ります、

un imanara oto:cŋantara papatara mamatarate
うん。 いまなら オトーチャンとか パパとか ママとかと

ju:to:redo hono zibunna i: ŋade ototo okaka-
いっているが、 その ころは 良い ので オトト(=父) オカカ(=母)

jaro ŋaine (S un) nen (S un) hono zibun
でしょう ね、 その ころ。

S ototo okakajane
オトト オカカだね。

D u n o t o t o o k a k a (オトト オカカ) うん オトト オカカ。

I s o r e e s u k o s i w a r u n a q t o d o d o d o d o j u : t a -
それが すこし かわるく なる と どう どう いった
d e s u k a (オトト オカカ) ですか。

D m u k a s j a (ムカシハ) むかしは、

S t o t o c j u w a n a n d a k a i n e (トト トト) トト トト といわなかった ですか。

D t o t o j a w a i n e (S i n e) t o : t o k a : k a t o : t o k a : -
トト だがね。 トート トート カーカ トート トート

k a c j u : t a (オトト オカカ) オカカ といった。

S n e h a n n a w a j u : t a n e (ネ ソンナノ) ね そんなの(に) いったね。

D i m a o b a : c j a n t o k a n e : N k o t o b a w a k a w a q t e (イマ
いま オバーチャンとか ね ことばが 変って

s i m o t e e : N (イマ シモテエ) しまって。

S h o j a t o t o k a k a n a n k a h o n n a w a k i i t a n e
そうだ トト カカ なにか そんなの(を) 聞いたね。

D i m a p a : p a t a r a m a : m a t a r a t e j a q t o r e d o o N (イマ
いま パーパとか マーマとかと やっているが

(42)
I j a : j a c j u : w a n a k a q t a k e (ヤーヤ) ヤーヤ というの(が) なかったですか。

D h a z u k a s i k e r e d o j u : t a w a i n e a n t a m i n n a h j a k u -
はずかしいが いました あんた みな 百

s j o n o h i t o r a q c j a j a : j a t o : t o j a w a i n e a n t a
姓の 人らは ヤーヤ トートですよ あんた、

m m a i k o t o i w a q s j a r u w a h o n t o n i o r a h a z u k a s i -
うまい こと(を) いわれるわ、 ほんとうに わたし(は) はずかし

te iwarenanda ja:jamo oraqcjano ucuno kotoe
くて いわれなかった ヤーヤも、 わたしらの 家の ことは

sjo:baija jasakai ja:jamadee iwanandaredo
商売屋 だから ヤーヤまでは いわなかったが、

hjakusjode naimon minna ja:ja benzjodomo
百姓(=農家)で ないもの(=から) みな ヤーヤ(だ)。便所なども

iwananda kansjo cju:ta monja (S un un)
いわなかった、 カンジョ といった ものだ。

S ne:sanc nja:nja cju:ne aree aqkona ucidake-
ネーサの ニャーニャ(嫁さん)というね、 あれは あそこの 家だけで

de naiyakaine ju:da wasira aqkona ucino
(は) ないのですか、 (あんなに)いうの(は)わたしら あそこの 家の

ne:sanni ne:sande nai ka:cjan jakedoo:
ネーサン(=嫁さん)に、ネーサンで なく (もう)カーチャン だが。

D oine minna ju:ta gaja mukaqsja honzjaredo
そうです。みな いった のだ。 むかしは そうだが

ano hitoda ano mamani nja:nja ja:njani
あの 人が あの ままに ニャーニャ ニャーニャに

naqtoru gai mukaqsja kono musumesan o nja:-
なっている のだ。 むかしは この むすめさん を ニャー

nja aqkona nja:nja kokono nja:nja cju:ta
ニャ(=嫁さん), あそこの ニャーニャ ここの ニャーニャ といった

gai
のだ。

S imademo ju:torune iqkendake
いまでも いうているね 一軒だけ(は)。

D ta:tatoka ne: oraqcjano wakai toqkja man
タータ(=おじょうさん)とか、ね、 わたしらの 若い ときは、 まあ

hono kodomono zibunna ta:ta cjoqko nensja
その こどもの ころは、 タータ(=嫁さん), すこし 年が

taqtara nja:nja (S hu:N) anesa hairone
取ると ニャーニャ、 アネサ(=嫁さん), そうだろうね、

jomeiri jomeni iqtarii: nandari sitara haja
嫁入り、 嫁に 行ったり など すると もう

anesanjaja imanara ne:santoka ju:toredo
アネサンだよ、 いまなら ネーサンとか いているが

anesanja
アネサンだ。

I honnara otokono koe do: ju:ta nadesuka
それなら 男の 子は どう いった のですか。

D ansama
アンサマ(青年の長男などのこと)。

S tanci cjuwanandakaine e:sano
タンチ(幼童)といわなかったですか、 エーサの(タンチのように)。

D kodomoø tanci
子供は タンチ(といった)。

S areø kodomokaine e:sano tanci cju:tarane
あれは 子供ですか、 エーサの タンチ といったらね。

(44)
D ancjan imani naqtara imademo ancjan ancjan
アンチャン(という)いまに なる。 いまでも アンチャン アンチャン

ju:toru
といっている。

S mukaqsja honnaga iwanandarone ancjandomo
むかしは そんなの(に) いわなかっただろうね、 アンチャンなど(と)。

D asukono ancjandomo iwanandarogai (S ne:)
あそこの アンチャンなど いわなかっただろうよ。

tanci ansama ne:
タンチ(で大きくなると) アンサマ、 ねえ。

I tanci cju:nowa i: i:nadesjo
タンチ というのは よい よいなのでしょう。

D i:naja i:naja anta
よいのだ、 よいのだ、 あんた。

S hojane anmari wasira wakai monde anmari
そうだね。 あまり わたしら 若い もので あまり(よく)

sirankedo e:sano tancidake siqtoruwa darenō
知らないが、 エーサの タンチだけ 知っているわ。 だれの

koto ju:toru daka sirankedo
こと(を) 知っている のか 知らないが。

D e:sano tanci tanci cju:tane
エーサの タンチ, タンチ といったね。

S u:N hoqde jokaqta dairo
うん それで (呼び方は) 良かった のだろう。

D jokaqta jajazo mukasi gohukuja siteen
良かった のだぞ。 むかし 呉服屋(を) して

(S hu:N) oqte honde jokaqta dai (S hu:N)
いた, それで 良かったのだ。

(8) 通学の服装など

D honzjaredo ima kondene hontoni kawaqta-
そうだが いま これでね ほんとうに 変りました

wane hucusoto iee joi kotobato iee:
ね, 服装と いえば よい(し), ことばと いえ

nanmokamo kawarimasita dai e: konna mukaq-
何もかも 変りました よ ええ こんな むか

sja gaqkoidomo iku toqkja konna tezimano
しは 学校へなど 行く ときは, こんな 手箱の

kimoN simanone: (S un) e: ucino kodomowa
きもの, 箱のね, よい 家の 子供は

kasurino kimoN (S un) hucu:no kodomo
かすりの きもの, 普通の 子供は

minna simano kimoN kite ikimisitade e:
みな 箱の きもの 着て 行きましたね え。

(S hu:N) hujudemo naðaðucu iqsoku nasi
冬でも 長靴 一足 なし,

cubutai ɖani zo:ri haite (S hu:N) hujujazo
つめたい のに そうり(を) はいて、 冬だぜ。

(S un) konna aka:i imademo omo:toruga aka:i
こんな 赤い、 いまでも 思っているが 赤い

keqto mo:hujateo imanara aka:i keqtoɖa
ケット、 毛布だよ。 いまなら 赤い ケットが

hajaqteneN aka:i keqto kitari iroirona koN-
はやってね、 赤い ケット(を) 着たり、 いろいろな こん

na keqto kitari gozabosi⁽⁴⁵⁾ kabuqte iku kokara
な ケット 着たり、 ゴザボシ(を) かむって 行く 子(供)から、

(S un) honna mantodomo mada oraqcjano
そんな マントなど まで(は) わたしらの

icinenja ninenNi nakaqtato omowa
1年や 2年(の時)に なかったと 思うわ。

S hu:N nan haitoqtaine iku toki
ふうん、 なに(を)はいて行きましたか (学校へ)行く ときは。

D eqkja huqsu anta imajori madamada ora juq-
雪が 降るし、 あんた いまより まだまだ わたし(は) 雪

kja aqtato omoɖane (S hu:N) huqtemo tai-
が (多く)あったと 思うがね。 (雪が)降っても 大した

suta sukasananda ɖadenaïke imanara a:sitewa
(努力もせず) 除雪しなかった のでないですか。 いまなら あ(のように)しては

sukasuni kuredo (S hu:N)
すかしに 来るが

S zo:ri ke
(はきものは) そうりですか。

D zo:ri haitoru ɖai
そうり(を) はいているのだ。

S jukja huqtoru ɖani
雪が 降っているのに。

D tabi haite zo:ri haiteqtawaine
足袋(を) はいて そうり(を) はいて行きました。

S aro jukino zibunni hakananda ga gomu warade
あの 雪の ところに はかなかったのか。 ゴム (否) わらで

cukuqta jacu
作った やつ。

D a n n a m o n d o m o n a k a n a k a h a k a n a n d a h a k o i i k u
あんな ものなど なかなか はかなかった。 羽昨(へ) 行く

k o m o o q t a s i h j a k u s j o n o k o d o m o e a n n a m o n
子も いたし 百姓の 子供は あんな もの(を)

cukuqte moqte haite
作って 貰って はいて(いたが).....

S a : n a n c j u g a i n e
あれは 何というのだね。

D a r e e h u k a g u c u
あれは フカグツ。

S h u : N a n o w a r a d e c u k u q t a j a c u
ふうん、あの わらで 作った やつ。

D h o j a h o j a h u k a g u c u h a i t e (S h u : N) o r a q c j a
そうだ そうだ フカグツ(を) はいて、 わたしら

t a i g a i z o : r i h a i t e w a n a n k a g a q k o e i q t e
たいてい そうり(を) はいては。 何か 学校へ 行って

g o h a n d a c u b e t a i t e t e a t a f a m e q c j u : k o t o m o
ご飯が つめたい といって あたためる という ことも

n a s i h o n n a b e n t o n o o k a z u s i t e m o q t e k u c j u :
なく、 そんな べんとうの お数(を) して(作って) 持って行く という

k o t o m o n a s i h o n t o n i k o n d e n e : s i q s o c j u e e
ことも なく、 ほんとうに これでね 質素 といえ

j o i k a i t a r a n a n d a c j u e e j o i k a a n m i n n a h o n n a
よいか、 いたらなかった といえ よいか、 あ みな そんな

g a j a s a k a i e n (S u n) b e n t o n o o k a z u n i h o n z j a -
のだから、 べんとうの お数(に)は) そうだ

s a k a i m m e : b o q s j a c j a (S h u : N) m m e : b o q s j a
から 梅ぼしだよ。 梅ぼし(を)

kiraina koə cukemon demo moqteqta monka
嫌いな 子は つけもの(漬物)でも 持って行った ものか

honna anta okazoireni okazo domo moqte kita
そんな あんた お数入れに お数 など 持って 来た

kodomo honna sjogaqkono zibunna minandazone
子供(は) そんな 小学校の ころは 見なかったです。

e: N nan moqteqta monzjara konde jonzju:nen
え なに(を) 持って行った ものやら、 これで 40年

gozju:nenno hanaqsja sakaien honna bentono
50年の(前の) 話だ から そんな べんとうの

okazodomo wasurete simotokoto haja (S u: N)
お数など 忘れて しまうよ、 もう(すでに)。

e: honna monna mazuito omota kotomo nasi
え そんな ものは まずいと 思った ことも なく、

honde manzoku site gaqkoe iqtoqta dadesjo-
それで まんぞく して 学校へ 行っていた のでしょう

daine
よね。

(9) むかしの進学

S hikawae iqtoqta dajaro
樋川(の小学校)へ 行っていた のだろう。

D hikawaja
樋川だ。

S hikawano sjogaqkoe detoqta daine
樋川の 小学校へ 出ていた のだね。

D un ano hikawano sjogaqkoda taqta tokino
うん あの 樋川の 小学校が 建った ときの

uresikaqta koto kozinno ucini oqta dadesucja
うれしかった こと。 個人の 家に(それまで)いた のですよ。

- S sa is joo
はじめ。
- D un o pinos imano simadani oqta dai (S hu: N)
うん 萩の島の 島田に いたのだ。
- hosite simadani ninenmo oqta dakane hosita-
そして 島田に 2年も いた のかね。 そうした。
- ra ano imano ano gaqko da dekitara imanoo
ら あの いまの あの 学校が できたなら、 いまの
- kota: boroborojaredo uresitene: haiqtara
ことは ボロボロだが、 うれしくてね (校内へ)はいったら
- dequtoko e wakarān tete sawaide aruite o:kii
出る ところが わからない と さわいで あるいて、(学校が)大きい
- monjasakai hon toni i: anō gaqko e ande me:zi
ものだから。 ほんとうに よい、あの 学校は。 あれで 明治
- jonzju: jonnenkato omōtoru gajaga (S hu: N)
44年かと 思っている のだが
- taqta gajaneN (S un) hon toni mukasino
建った のだね。 ほんとうに むかしの
- kotoo kangaete miru cju: to ima mān a nna
ことを 考えて 見るか というと、 いま まあ あんな
- nanjara kanjara wakarān desuwaine (S u: N)
何だか カンだか わからない です。
- zin zjo jonnen ni jameteku hitojara hōnde hōkae
尋常4年に 止めて行く 人やら、 それで ほか(の家)へ
- komorini iqtadadeqso hatabae iku hitojara
子守に 行ったのですよ。(紡績の)ハダバへ 行く 人やら、
- maN zin zjo rokunen de o: kata haja minna ja-
まあ 尋常 6年で 多く もう みな 止
- mete gimukjo: iku cju: kotomō nakaqtaredo
めて、 義務教育 という ことも なかったが、
- andene: hosite onnāno hitora tai dai nanzja-
あれで ね。 そうして 女の 人など(は) たいい 何だったが

qtaredo oraqcjaɣaa: koqde joi ucino hitoɣa
(進学しなかったが)。わたしが これで、 よい 家の 人が

kono oɣici cju tokoni oqtaqta ɣai jonin
この 萩市 という ところに おられた のだ、 4人、

orato joninka hositara atono hitoraga gaq-
わたしと 4人か、 そしたら 残りの 人たちが 学

kono sjeɳsjeɳo ucino hitojano kannuqsanno
校の 先生の 家の 人だの、 神主さんの

ucino hitojano minna ko:toe deq cju:taqta
家の 人だの、 みな 高等(小学)へ 出る といわれた

ɣai hositara ora omote eɳ hositara oramo
のだ。 そうしたら わたし(は) 思って ね、 そうしたら わたしも

detaisakai daite kure tete ucino hitoni
(高等へ)出たいから 出して くれ と、 家の 人に

ju:taraa honnaraaɳ hondake detakeree daite
いったら、 それなら それだけ 出たいならば 出して

jaq tete daite morotaɣa jokaqtaredoon aru
やる といって 出して 貰った(の)が よかったけれど、 ある

hitoɣa ju:taqta horewa wasureɳzone a:q
人が いわれた。 それは 忘れません。 ああ

aqkorano kodomoɣaaɳ ko:toe deta tete ju:ta
あそこなんかの 子供が 高等(科)へ 出た と いった。

hairone anta imano daigaqkjori hodoni iwa-
そうだろうね、 あんな いまの 大学より (大学)ほどに いわ

reta monka ora mada jakamasiiɣani ju:ta
れた ものか、 わたし(のこと)まで やかましい(=うるさい)のに いった

ɣade naikato omoɣaja (S hu:ɳ) ano aqkora-
ので ないかと 思うのだ。 あの あそこら

no kodomoɣa ko:toe joi ucuno kodomo min-
の 子供が 高等へ(行く)。良い 家の 子供を 見習

ro:tee: aqkona kodomoɣa ko:toe deqtoine
って、 あそこの 子供が 高等へ 出るそうだね

cju:taqta honzjaredo jaqpariin detari dai-
といわれた。 そうだが やはり (自分も)出たり (親から)出し

te moqta okaŋenii: jaqpari horeə iqsju
て 貰った おかげに(よって), やはり それは 一生

konde anta minnato tonarino obabaraqcja
これで あんた 皆と(肩が並べられる)。となりの おばあさんなどが

kitewaa: N ba:cjan sinbunna jonde doja hesu-
(家へ)来ては, おばあちゃん 新聞は 読んで どうだ, ヘシナイ

na⁽⁴⁶⁾ nakarodane tete ora asademo sinbun cira:-
ことが ないだろうがね と, わたし(が) 朝など 新聞(を) チラ

qto midasidake mite ho:siq cju:to tonarino
ッと 見出しだけ 見て(いると), そうする というと, となりの

obaba hoja wainete oraqcja nan kaite aroŋa
おばあさん(は)そう ですよと, わたしら(は) なに 書いて あろうが

ikurademo hima aredo bakaraide⁽⁴⁷⁾ jomare-
(分らない) いくらでも(読む) ひまは あるが, わからなくて 読めな

nna tete ju:teni cuite a:a mono cju: monna
いな と いわれる(の)に ついて, ああ もの という ものは

naro: toki jaqpari narotokan kotonja iqsjo
習う(べき) とき(に) やはり 習っておかない ことには 一生

torikaesino cukan monzjato ora omote cuku-
取りかえしの つかない ものだと わたし(は)思って つく

zuku man kansin sitewa orimisuwaine e:
づく まあ 感心 しては おりますです。 え

jaqpari anta hitoe konnapee⁽⁴⁸⁾ teŋaqmja kitemo
やはり あんた 人が こんなのだ(と) 手紙が 来ても,

koreə donna ŋaine tete icudai to:tewa to:-
これは どんな のですか と 一代(=一生)(人に)たずね たずね

tewa oru mani anta kakarenedomo jomudakeə
ては いる 間に あんた, (字は)書けないが 読むだけは

rikucuna⁽⁴⁹⁾ jomu mondeqsone hondeen araa:
リクツな(ことで) 読む ものですよ。 それで ああ

hontone ojano okapene jokaqtananto omote
 ほんとうに 親の おかけで よかったなど 思って、

ima toqsja eqtaraan kansja site orimasucja
 いま 年が 行ったら 感謝 して おりますよ。

uN hontoninen hondake jakamasi iwarete
 うん ほんとうにね それだけ やかましく いわれて

binbonakaqta monde gaqkoe deta gaizone
 貧しかった もので、 学校へ 出た のです。

(S hu: N) uN

(10) あ い さ つ

S (49b)
 (aisacu ikimasuka) honnaraan obaba anoon
 《あいさつ(へ) 移りますか》 それなら オババ、 あの

asaa: hitonidemo o:ta tokini aisacu suru
 朝 (ほかの)人などに 会った ときに あいさつ する

jaro (D uN) are donna dani ju:toqta pai-
 だろう。 あれ(は)どんな のに いっていた です

ne mukasidemo man hucu: no kotobani ju:te
 か、 むかしでも まあ 普通の ことばで いって

mireba
 見れば。

D mukasika
 むかしか。

S uN imanara ohajo: gozaimasu cjujaro (D uN)
 うん、 いまなら お早う ございます というだろう。

mukaqsja honna iwanaNdajaro gaine donna
 むかしは そんな(に) いわなかっただろう がね。 どんな

koto ju:toqtaine asa
 こと いってました、 朝

D ohajo: gozanqsanecju: dairoane (S hu:N)
お早う ゴザンswネ(ございます)という のだろうがね、

hojaro
そうだろう。

S ohajo: gozansane tee:
お早う ゴザンサネ と(いうのか)。

D un ohajo: gozanqsanete
うん、お早う ございますと(いう)。

S hu:N honnara niqcju do jutoqtaine niqcju:
ふうん、それなら 日中(は) どう いってましたか、 日中(は)。

D niqcjuka (S un) i: tenkijanen tete..... ima
日中か。 よい 天気だね と、

tenkja jokeree joitoka joi anoon ijana
天気が よければ よいとか よい、 あの 嫌な

amejaneN tete konna jo:na monzja
雨だね と、 そんな ような ものだ、

S hu:N nen cukerune
ふうん ネン(を)(あとに)つけるね。

D un ja:na amejaneN (S un) joi tenkijanen
うん 嫌な 雨だね、 よい 天気だね

tete konna jona hojaro (S un)
と、 そんな ような、 そうだろう。

S jorue donna daine ju: Datademo
夜は どんな のですか、 夕方(のこと)でも(よいが)。

D hojane: osi imawa konbanwa osimaisanjarō
そうだね、 オシ(マイサン); いまは こんばんは オシマイサンだろ

dai
うよ。

S un horee ju: Datajaro daine
うん、それは 夕方だろう がね。

D un ju: Datademo ju: han tabetekarademo osima-
うん、 夕方でも 夕飯 たべてからでも、 オシマ

isan tete ju:teja miNnaɕara osimaisan cju:
イサン と (みなさんが)いわれる。(どなたも)みな オシマイサン という。

honna haikarana kotoba iwananda ɕade naika-
そんな ハイカラな ことば(を) いわなかった ので ないか。

na: honzjaredo osimaisanɕurai ju:toruwai
そうだが オシマイサンくらい(は) いているよ。

(S ne:) uN
うん。

S imademo ju: ɕade naikaine osimaisan
いまでも いう ので ありませんか、 オシマイサン(は)。

D imademo osimaisan ju:toru (S ne: hu:N)
いまでも オシマイサン(は) いている。 ね、 ふうん。

konbanwado mo nakanaka saikin hajaqte kita
コンバンワなど どうして 最近 はやって 来た

kotobade (S uN) eN osimaisan jaroɕaine
ことばで、 え オシマイサン でしょう、

(S neN) uN
ね うん。

S jomedorini iqte nanka iwanke jomedorino
よめ取りに 行って なにか いいませんか。よめ取りの

ko:zjoka nanka donna ɕa ju: ɕaine jomedori-
口上か なにか(は) どんな の(に) いい ますか、 よめ取り

ni iqtara
に 行ったら。

I ano:N josono ucino: ojomedorino: ano: oiwa-
あの、 ほかの 家の およめ取りの、 あの お祝

io ju:jo:na nanka sono katamitaina monna
いを いうような なにか その 型みたい ものは

nanka kono henni nai mondesuka donna jona
なにか この あたりに ない 物ですか、 どんな ような

koto ju:ta mondesuka
こと(を) いった 物ですか。

D ho:jane: oraqcja anta honna toqkja wakaishi-
 そうだね わたしら(は) あんた, そんな ときは 若いし。

(jaro)

S nanka jokogawano ucie nanka mono moqteqta
 なにか 横川の 家へ なにか もの(を) 持って行った

gade nai gake nanka jomedorini arujaro
 ので ない のですか, なにか よめ取りに (話すことが) あるだろう

gaine jomedoqrja arujaro doqkani hon toki
 がね。 よめ取りが あるだろう どこかに その とき

sinamondemo moqte ikujaro gaine oiwaino
 (祝いの)品物など 持って 行くだろう がね お祝いの。

hon toki nanka ju:jaro gaine kotobao
 その とき なにか いうだろう がね ことばを。

D honna koto mmaikoto ju: hito aredo oraqcja
 そんな こと(を) 上手に いう 人(は) あるが, わたしら(は)

anta honna tokoe iqta kotoo naimonno
 あんた そんな ところへ いった ことが ないもの(=ないから)。

S honzjakedo nanka ju:jaro gaine kantanna
 そうだが なにか いうだろう がね, 簡単な

kotobade
 ことばで。

D kantanna kotobadeka (S un) hoja honna
 簡単な ことばでが。 そうだ そんな

kantanna re:ka na:N kokora konde kan.....
 簡単な 例か。 いや ところ(は) これで 簡(単な)ところで),

nendoroja cju:temo kantanna kjoa antaan
 ていねいだ といっても 簡単な, 今日(は) あんた

omedeto gozaimasu cjute man konna jona mon-
 お目出とう ございます といって, まあ こんな ような もの

zja hontono mukasikara kantanna gaja
 だ。 ほんとうの むかしから 簡単な のだ。

S hu:N tada omedeto gozaimasu
ふうん ただ おめでとう ございます(か)。

D un kono tabi omedeto gozaimasu tete konna
うん この たび(は) おめでとう ございます と こんな

jona monzjajaine hono maeno kotobaba oraq-
ような ものだがね。 その 前の ことばが、 わたし

cja obababa oqtaqta monde orano ojaaba oqta
らは オババ(ここでは母)が おられた もので、 わたしの 親が いた

monde oraqcja zjenzjen sonna tokoe taqci
から、 わたしら 全然 そんな ところへ タッチ

sjenanda monzja
しなかった ものだ。

S a:N obababa baqkai jaqtaqta monde
ああ、 オババ(ここでは母)が 世話(を) やられた もので(=ために)。

D on oraaba ucini umareta monnaba desucja
うん、 わたしが 家に 生まれた ものなの です、

honto ju:tara hositara hono obaba cju:
ほんとう いったら。 そうしたら その、 オババ という

sita:kensikie aqte orano oja Jaredo singa
人は 見識が あって、 わたしの 親 だが、 死ぬが

sinmade zenbu kamotoqtaqta gai. (S hu:N)
死ぬまで 全部 (家の事を)かまっておられた のだ。

ucino kotowa ge:ta kodomoni geta iqsoku
家の ことは 下駄(を) 子供に、 下駄 一足

ko:amade obabano
買う のまで オババの

S jurusi nake
許し(が) なけ(れば?).....

D jurusiya nakeneo kowan gai. (S hu:N) kowan
許しが なければ 買わない のだ。 買わない

tete horeo nande ko:ta cjuwa iwanedomo
といって(も)、それは なぜ 買った とは いわないが、

ojano ju:tori sitoree maci bai naito mote
親の 云う通り(に) しておれば 間違い(が) ないと 思って。

(S un) hojaronen (S un) honde sonna
そうだろうね。 それで... そんな(ことは)

obabano honna nande korekosa siranzja dare-
オババの そんな(ことはオババの)なに(仕事)で これこそは 知らないよ。 だれ

kani hore cjoqto hitokoto anta kiite hanasi
かに それ(を) ちょっと 一言 あんた(が)聞いて はなし(を)

suru koqcja
する ことだ。

S un hositaraan (D un) akacjan umareqrjaro
うん そうしたら(つぎに), あかちゃん(が) 生まれるだろう,

dc:sje aka... nanka akacjan umarefara nanka
いずれ あか(ちゃん?)。なにか あかちゃん(が) 生まれたら, なにか

mata moqteqtaro (D un) aree nanka ju:te
また 持って行っただろう。 あれは... なにか いって,

moqteqtaro: uaine
持って行っただしょう。

D aree hore horemoja uaine antatckoni in aka-
あれは... それ それもだ... がね... あんたと共に... あか

cjan umareta teteeN comedeto gozaimasu
ちゃん(が)生まれた... ってね... おめでとう... ございます。

(S un) horee imanta saikinno kotobaja
それは... いま あんた 最近の... ことばです

zone (S un) mukasino honna koto ju:taka-
よ。... むかしの(noは不要) そんな(こと)... いったか

ne:N
ね。

S donna koto ju:toqta monkane tada bosa:qto⁽⁵⁰⁾
どんな こと... いていた... ものかね... ただ... ボザーッ(と行きますか)。

D ikan jaqpari honde medetakeree medetai ju:-
(ただ)行かない。やはり... それで, めでたければ... めでたい(と)... いっ

tee: konnaan nan⁽⁵¹⁾ sita monjaredomoon tete
 て, こんな つまらない ものだが と

ju:te moqteku gairo gaine (S un) hairoo
 いて, 持って行く のでしょう。 そうだろう,

(S un u:N) keqkjoku
 つまり(は)。

S so:sikino tokiwa so:sikite hito sinda qta
 葬式の ときは, 葬式というのは 人の 死なれた

tokijazo
 ときだぞ。

D sinda qta toqkja nihon zjen goku iqsjo jaro
 死なれた ときは 日本 全国 いっしょ (=同じ)

gaine
 でしょう。

S donna ga sitoqtaine
 どんなの(に) していましたか。

D hairo kono tabiwaan (S un) nani tete man
 そうだろう。 この たびは 何 と(いて) まあ,

dare hajaroneN otoqcantoka ozi:cjantokaaN
 だれ, そうだろうね, お父さんとか おじいちゃんとか

(S un) no:naru masite haja (S un) ikura-
 亡くなるまして (=亡くなられて) はや(どうも) どれだ

kosa anoon osabisii kotode (S un) gozai-
 け あの お淋しい ことで ござい

masjote man konna jona monzja oraqcjano
 ましょうと, まあ こんな ような ものだ わたしらの

kota:
 ことは。

S kimaqte mo:toru monno ne:
 きまって しまっている もの ね。

D kimaqte mo:toru un (S hu:N) iroiro osjewa
 きまって しまっている, うん。 いろいろ お世話

simasitaredo naNcju nasakenai tete koNna
しなしたが、 行どいう なさけない と。 こんな

jona mondesicja dokomo iqsjo desicja koNna
ような ものですよ。 どこも おなじ です。よ。 こんな

moNna uN
ものは、 うん。

S kazini naqtara do:sita gai kazini naqtara
火事に なったら どうした のだ。 火事に なったら。

I kazimimai desucja
火事見舞 です。よ。

D aN kazimimaike
あ 火事見舞ですか。

S a: anmari nai mondene: anna moNna
あ あまり ない ものでね、 あんな ものは。

D nai monde oraqcja anta kaziminainidomo
ない もので。 わたしら あんた 火事見舞になど、

otokodaqcja baqka iku monde ucira (I hu:N)
男たち ばかり 行く から (この)家など(では)。

haironen (S uN) ora kono tosini naqtoredo
そうだろうね わたし(は)この 年に なっているが、

kazimimainidomo iqta kota: naiwaine (S hun)
火事見舞になど 行った ことが ありません、

uN
うん。

S omojaniin aqtaro gaine kazi (D uN uN)
本家に あったでしょう、 火事(が)。

antoki ne:sanni o:ta toki owanandakaine
あのとき (本家の)よめさんに 会った とき(どうした)。会わなかったですか

ucino hitoni
家の 人に。

D owananda
会わなかった。

S hu:N soja aNmari nai moNne:
ふうん、 そうだ、(火事)あまり ない からね。

I nai koqcja sakaine:
ない ことだ からね。

S otokono hitoo me:si moqteka nanka sitee:
男の 人 は 名刺 持ってか 何か して、
honde owarija moN ne:
それで 終りだ もの ね。

D hoja (S hu:N) konde terebidemo mitoq
そうだ。 これで テレビでも 見ている

cju:to sono tokorono nantete kondene: nan-
という、 その ところの なに(=習慣など)といってこれでね なにし

sitapa aru mondesuredo kokora nanzjara
た(=変った)の(が)ある ものですが、 このあたり(は) 何だか

sagpukena (S huhuN) man kantaNna Qadesjo:-
殺風景な まあ 簡単な のでしょう

Qaine (S un) kanta:Nna konna rakuna
ね。 簡単な こんな 楽な

tokonaQadesite
ところののでして。

I ano honnara ano: josono miseene (D e:)
あの それなら、 あの ほかの 店へね、 ハイ

ano monoo kaini iku toki kodomono toki do:
あの ものを 買いに 行く、 とき、 子供の とき どう

ju:te haiqtekareta desuka
いって はいって行かれた ですか。

D a kodomono tokinine
あ 子供の ときにね。

I tatoeba okasidemo ano okasidemo kaini iku
たとえば お菓子など、 あの お菓子など 買いに 行く
toki
とき。

D kore kenke⁽⁵²⁾ are kenke cju:ta monzja hazuka-
これ ください、 あれ ください といった ものだ。 はずか

sii hanaqsjaredo un oraqcjano kodomono
しい。 はなしたが、 うん わたしらの 子供の

zibun
ころ(は)。

S maidosante haiqtekanandake
マイドサンといって はいって行かなかったですか。

D maidosandomo ju:taga anta oraqcjano kodomo-
マイドサンなんか いったの(は), あんた わたしらの 子供

no zibunni maidosan domo juwananda kore
の ころに マイドサン など いわなかった。 これ

kenke are kore hojaroo (S un) manzju
ケンケ, あれ(ケンケ)これ(ケンケ), そうだろう。 まんじゅう

kenketoka are kenke dandanui naqta he:ro
ケンケとか, あれ ケンケ(とか), 次第に(変るように)なった。 そうだろう,

ano nan sitara maidosan kore kndai cju:pani
あの ひょっと すると マイドサン(=今日は), これ クダイ(=下さい)というのに

naqta:ai mukaqsja kenkejazo
なったのだ。(しかし)むかしは ケンケだぞ。

S kenkedakeke
ケンケだけです。

D odecuno kenke sju:no kenke cju:ta monzja
荻市の ケンケ, 子浦の ケンケ といった ものだ。

(S hu:N) un are kenke ano hojaro kwasi
うん あれ ケンケ, あの そうだろう, 菓子(を)

kenketoka kore kenketoka site ju:ta
ケンケ(=ください)とか, これ ケンケとか して いった

monja
ものだ。

S maidosandomo juwanandake
マイドサンなど いわなかったですか。

- D juwaN juwaN... いわない、 いわない。
- S wasi rakane ju:taɖa... わたしらかね、 いったが。
- D maidosaN ju:toru
マイドサン(は) いる。
- S anzjusaedemo haiqteku toki maidosante hai-
アンジュサ(=屋号)でも はいって行く とき、 マイドサンと はい
- qteqtee: ...
って行って。
- D ju:ta ima. anta maidosaN jori konniciwaja
いった。 いま あんた、 マイドサン より、 コンニチワだ
- ɖaine honɖake kawaqta ɖai (S un) maidosa-
がね。 それだけ 変った のだ。 マイドサ
- Nmo nanmo nakaqtawaine kore kenke are kenke
ンも にも なかったです。 これ ケンケ、 あれ ケンケ(と)
- ju:ta ɖai (S hu:N) un
いった のだ。
- I sono kenke cjunowa te:nena i:kata desjoo
その ケンケ というのは ていねいな いいかた でしょう。
- D sju:no kenke opicuno kenkete man sju:to
子浦の ケンケ、 荻市の ケンケとって、 まあ 子浦と
- opiciɖa sonna monna hajaqta ɖadenaike ano
荻市が そんな ものが はやった のでないですか、 あの
- jono hore janazeno hoe iku cju:to kusancje-
ような それ(が)。 柳瀬の 方へ 行く というと クサンチェ(=
- tara cju:taqtawa
下さいませ)とか といっていたわ。
- S nanka honna ju:ne kusancje
なにか そんな(に) いうね。 クサンチェ(と)。
- D un are kusancje kore kusancje cju:taqta
うん、 あれ クサンチェ、 これ クサンチェ といわれた。

ho: suq cju to kenke cju ða cjoqto zjohiNrasi
 そうする というと, ケンケ というのは) すこし 上品らしい

ðaine (S hu: N) hojaroneN
 がね。 そうだろうね。

I kiqto zjohiNna kotoba desjo
 きっと 上品な ことば でしょう。

D zjohiNna ða desjo ðaine (S hu: N) are kenke
 上品なの でしょうね。 あれ ケンケ

kore kenke oðicuno kenke sju: no kenkete
 これ ケンケ, 萩市の ケンケ 子浦の ケンケと

minna ju: ta tokoja (S hu: N) hjakusjono
 みなが いった ところ(=地域)だ。 百姓の

ho: wa ikeo kusancje janazjeja sonna jaqcjae
 方は, いけば クサンチェ(だ)。 柳瀬や そんな(百姓の) ヤチ(=谷

kusancje cju: ta
 内)は クサンチェ といった。

S hu: N kenke cju ðaine
 ふうん, ケンケ という のだね。

D un kenke (S hu: N) danda nni naqte anta
 うん ケンケ。 だんだん(あと)に なって あんた

maidosa nte iqte ima konnicipwajaro
 マイドサンと いて, いま コンニチワだろう。

S un wasira maidosa n jaqtawa
 うん わたしら マイドサン だったよ。

D anta maidosa nka (S un) imano anta konna
 あんた マイドサンか いまの, あんた, こんな(小さい)

kodomoe konnicipwa te iku ðaine ne: ne: wa
 子供が 今日、 と (はいて)行く がね。 ね、 もともと

anta ora karausa: nna konna keno monde hon
 あんた, わたし(は) はっきりしない こんな 気の もので, ほん

toni in nanjazone mukasino nenðorona kotoe
 とうに 何ですよ, むかしの ていねいな ことは

siran ɖadesucja zaqkubarande oru taqcjasa-
知らない のですよ, ザックバランで いる 性質だ

kai
から。

I e e honde joi ɖadesu e:
え え それで よい のです。 ええ。

D konde kicinto sita ucuniin nansuq cjuto
これで きちんと した 家に 何する(生れたりする)というと

nanjaredo uqcja nanzjara
何だが, (私の)家は 何だか。

S kicinto sita ucini ho:ɖen te: monna naiwai-
きちんと した 家に 方言 という ものは ないです。

ne

D ho:kane
そうかね。

S honna kitanaï kotobacja cuko:toranjaro
そんな きたない ことばという(もの)は 使っていないだろう

ɖaine
がね。

D hojamo sɪrenne:
そうかも 知らないね。

S un ano nakahaqsan tokaa:
うん あの 中橋さん(の) ところは。

D so:de gozansutea ju:te oraqcja tomodacudo:-
そうで ゴザンスと いて, わたしら(は) 友だちどうし

qsjazo nakahaqsanno okusanto oraqcjano
だぞ, 中橋さんの おくさんと。 わたしらの

konna zaqkubaranna kotoba iwanzja
こんな ザックバランな ことば(は) いわれない(=使われない)。

S nanja(nandeja?)
何だ (なぜか?)。

D ho: suq cju:to sitasimiŋa nai jo:na monjane
 そう する というと, 親しみが ない ような ものだね。

(S un) tomodacido:si do:kjusjedo:si o:te-
 友だちどうし 同級生 どうし 会って

moon cjoqto aratamaqtoqteja cju:to nanjara
 も すこし あらたまっておられる というと, 何だか

okasii monja (S un) un
 変な ものだ, うん。

S cuŋi nanka sicumonna nanka naidesuka
 つぎ(に) 何か 質問は, 何か ないですか。

I e e mo daitai
 え え もう だいたい(すみません)。

D ara: totonowan kotobaqkari antaan ju:teen
 あら ととのわぬ ことばかり あんた いて。

I ija ija ano sore nan nao kiki+akaqta gade-
 いや いや あの それ(が) なに なお 聞きたかった ので

suwa e:
 す, ええ。

D nanmo anta cumamu tokomo nai banasibaqkari
 なにも あんた 捕える ところも ない はなしばかり

desugaine
 ですがね。

(11) シ オ ジ 之 乎 路 (飴の名)

S dojaine amee: mukasikara cukuqtoru ŋake
 どうですか。 飴は むかしから 作っている のですか。

D a mukasikara
 あ むかしから,

S oba:cjanno oba:cjanno maeno maeno oba:cjan-
 おばあちゃんの, おばあちゃんの 前の 前の おばあちゃん

- madee toba:cjankara hazimeta gake
まで、(いや)おばあちゃんから はじめた のですか。
- D nanmo maeno maeno hitokara (S hu:N) konde
いや 前の 前の 人から。 これで
- orade jondaimeja cigai (S hu:N) sa sandai-
わたしで 4代目だ というのだ。 あ 3代
- mede oqcja to:cjande jondaimeja cigairedo
目で、 わたしの(家の若い)トーチャン(=息子)で 4代目だ というのだが
- (S hu:N) hore⁽⁵³⁾da hairoo hani hiroku ima
それが、 そうだろう、 範囲(を) 広く 現在
- sezu mukasino mamani maN onnanno naisjokuja
しないで、 むかしの ままに、 まあ 女の 内職だ
- tete ima sitoru monjasakai na:N nobiN
といって、 いま している ものだから さっぱり 延びない。
- S aree nancju ameja ine
あれは 何という 餡ですか。
- D ucinoga siozi
家のの(は) シオジ。
- S hu:N mmai ameja ne:
ふうん おいしい 餡だね。
- D ame toqte kite aere^e jokaqta uqkari omota
餡(を) 取って 来て あげれば よかった、 うっかり 思った。
- mizuame ima siroi^{ga} kiretoru gai (S hu:N)
水餡(は) いま 白いの(が) きれっている のだ。
- daigaqkono sjensje desuka ho:ON jacin^o
大学の 先生 ですか、 ほう 谷内の
- okabesanne dokono dai^{ga}kue a^{de}te dair^o
岡部さんに どの 大学へ あげて(な) のやら、
- konna ame^o cuka imoⁿⁿⁱ sitaqta koto^o aru^o
こんな 餡を つかいもの(=贈物)に なさった ことが あります。
- S mezurasiiwaine kono ame^o
珍らしいです、 この 餡(は)。

- D okabesan tete gozonzide naidesuka
岡部さん といって ご存じで ないですか。
- S nanka kono konoheNnoine ano kita: arujarone
なにか この このあたりのね、 あの 喜多(というの)が あるでしょう。
- (I eN) kawasirino (I eN) ano kitato nan-
川尻の。 あの 喜多と なに
- ka narande tomuraka nanka iwaretoqteja
か 並んで 十村か なにか(と) 云われておられる。
- D iwaretoru uci jo:ne dono ho:nokara oideru⁽⁵⁴⁾
いわれている 家(だ)。よくね どの ほうから(?) おいでる
- gaka daiyakuno daiyakuno nan no daiyakuno
のか、 大学の 大学の、 何の 大学の
- sjeNsjeɔatajara jaqpari:cjoqto mukasino
先生がたやら、 やはり ちょっと むかしの
- kotoo sirabeni oiderurasiiwa nanka sjomocu-
ことを 調べに おいでるらしいわ、 何か 書物
- ga takusan aru.....
が たくさん ある。
- I an so:desuka
あ そうですか。
- D mukasino sjurukentokane anna monna katanaja
むかしの 手裏剣とかね、 あんな ものは 刀や、
- anna monna takusan aru uci deqsaine
あんな ものは たくさん ある 家 ですよ。
- I an ooba:cjan me:zi nanneN umare desuka
あの おばあちゃん 明治 何年 生れ ですか。
- D ora me:zi sanzjugoneN desu
わたし(は) 明治 35年 です。
- I sanzjugoneN desuka (D e:) hojakedo ano
35年 ですか (それは) そうだが あの
- se:wa nan ano amejasande naiɔadesjo
姓は、 なに、 あの 館屋さんで ないのでしょう。

S doici nandesu nen
ドイツ なのです ね。

I doi doisanke
ドイツ ドイさんですか。

D doici
土一。

S do cucito pa icinandesu
ト 土と バ 一なのです。

D konna cucutoon konna kantanna na:ja ahodemo
こんな 土と こんな 簡単な 名だ。 ほかでも

kakareru
書かれる。

Same ame cukuqtoqteja monzjasakai hucu:
..... 飴, 飴(を) つくっておられる ものだから, 普通

ameja ameja cju:ne
飴屋 飴屋 というね。

I ha ha han doici nani nanisan cju:ake
は は は 土一 なに, なにさん というのですか。

D orano nake (S u uN) doici tomi cju:adesu
わたしの 名ですか。 土一 登美 というのです。

(I a:N)

S ucino ojazirato iqsjono gaine gaqkomo
家の オヤジ(=父)らと いっしょの のだね, 学校も。

D iqsjoja honde jaqpariin mukasi hurikaeqteen
いっしょだ。 それで やはり むかし(を) 振りかえって,

dandanto toqsja ikuni cureteen a:q siawasje-
だんだんと 年が 行くに つれて, ああ しあわせ

jananto omotewaaN jamodo kodomoga oqteen
だなど 思っ(て)は(ね)。 (55) たくさん 子供が いて

taihen na jajaredomoon jamodo oreakoso kon-
たいへんな のだが, たくさん おればこそ これ

dakene minnasite daizini site kureruwato
だけに みんなして 大切に して くれるわと

omoteen ora jorokonde oru dadesucja un
思って わたし(は)よろこんで いる のですよ, うん。(しかし)

mada aqkato omote oraren daicja mada an
まだ 安心に 思って 居られない のだよ。 まだ あ

jomesan moro kodomomo oqsi
よめさん(を) 貰う 子供も いるし。

S obaba mo cjoko suree magoe jomesan morozone
オババ, もう すこし すれば 孫が よめさん(を) 貰うぞね。

D jama magoe jomesan morojori magoe ko:ko
(云いあやまり)孫が よめさん 貰うより, 孫が 高校

socujjo: sitorusi isodasii anta aqkato
卒業 しているし いそがしい。 あんた, 安心に

omote jasundemo oraren doqka kanazaono⁽⁵⁶⁾
思って 休んでも いられない。(あなたは) どこか 金沢の

ositode gozansuke aan
お人で ございますか, ああん。

S sensee cubatakaine
先生は 津幡ですか。

D o: on hode gozansuke
お お そうで ございますか。

I doici tomisan e: sosite me:zi sanzju:
土一 登美さん, え そうして 明治 30.....

D goneN desu
5年 です。

I sanzju: goneN desune e
35年 ですね, え。

S hirakanano tomike
平仮名の トミですか。

D hirakanani kaitokee joi gaine honna mon
平仮名に 書いておけば よい がね, そんな もの。

- S kanzja a arejaro ðaine
漢字は あ あれだろう がね。
(あるだろう?)
- D aredo anna mucukasii anta noboru cju: zito
あるが あんな むつかしい あんた、 登る という 字と
- ucukusii zitode joi ðai
美しい 字とで よい のだ。
- S aa:N naruhodo
ああ なるほど。
- D hajar⁽⁵⁷⁾o (S un)
そうだろう。
- S me:zi sanzju jonenjane
明治 34年だね。
- D goneN
5年。
- S goneNke
5年ですか。

(12) イッタッタ・キタッタなど

- S a ano darejara ne:san dokono hitojaine aree
あ あの だれやら よめさん どの 一人だね。 あれは、
- D ucino ne:san saqporoja
家の よめさん(は) サッポロだ。
- S hoqkaidobendemo aru monke
北海道弁でも ある ものですか。
- D hoqkaidobenna aruwa ne: hoqkaidoto kono
北海道弁は あるわ ねえ。 北海道と この
- oðicina ðato maziqtoqte nanjara oka:site
荻市の と まじっていて、 何だか おかしくて
- okasite
おかしくて。

S cjoqto okasii tokoe arune
すこし おかしい ところが あるね。

D un hojarone ano sitoe iqtawa tete ju:toqtato
うん そうだろうね。 あの 人は (他人に) 行ったわ と いていたと

omoeo waga kodomono ju: koto⁽⁵⁸⁾ kitaqtawa tete
思えば、 わが 子供の いう こと(を) 来られたわ と

ju:si o:warai suru^{da}izone aree haqkiri wa-
いうし、 大笑い するのですよ。 あれは はっきり 分

karan benna maziqte simote ucino kotobao
らない。 弁が まじって しまつて、 家の(ものに対する) ことばを(→

ujamo: imini naqte sitoo cjoqto misa-
ことばが) うやまう 意味に なつて、(ほかの) 人を すこし 見さ

data joni sitarine oqcja kaene o:warai
げた ように したりね。 わたしら かげで 大笑い

sitoredo anta imazja sizju: s^{unda} monnoo:
しているが、 あんた、 いまでは 40 すぎた もの

kotobajasakaé honna mon hqtoke tete ucini
ことばだから、 そんな もの(は) 放っておけ と、 家に(→家

o:warai sitoru ^{da}adesudai kitaqtawane
では) 大笑い している のですよ。 来られたわね

iqtaqtawane te waga ko ju:toru jaro hokano
行かれたわね と わが 子(のことを) 知っている だろう。 ほかの

sita: aree kitaqta kita ^{da}ae tete ju:tewa
人(について)は あれが 来られた、(いや)来た のだ と いては

oqsakai e:..... obande gozaimasute konbanwa
いるから。 ええ オバンデ ゴザイマス(=こんばんは)と(いう)。こんばんは

cju ^{da}one obande gozaimasute ju:toru ^{da}ajasi
という のをね、 オバンデ ゴザイマスと いている のだし。

S hosite kitaqtatoka honna ^{da}ani ju:ne (D un)
そうして、 来られたとか、 そんな のに いうね。

iqtaqtatoka kitaqtatoka
行かれたとか、 来られたとか(いう)。

D uN ju:waine
うん いいます。

S iqta cjuwan ɣaine
(わが子に)行った といけませんね。

D uN iqtaqta kitaqta waɣa kodemo sonna ɣaizo
うん, 行かれた 来られた(と), わが 子でも, そんな のだぞ。

(S uN) ho:jato okasite okasite naran tete
そうだと おかしくて おかしくて ならない といって

minna waro: ɣai (S uN)
みな 笑う のだ。

S iqtaqtawane toka kitaqtawane cju:ne (D uN)
行かれたわね とか 来られたわね というね。

I ja: do:mo arigato gozaimasita
やあ どうも ありがとう ございました。

注

- (1) [p.5] anooNはano よりも親しみが有り、やわらかい表現のように思われる。「あのね」と訳してもよいであろう。
- (2) [p.5] tokinii:とtokiniの関係も(1)におなじ。以下こうしたものは省略。
- (3) [p.5] teɣajaをteɣada とはいわないが、-jaは-daより親しみのあることは確かである。ただし-jaはあまりていねいとはいえない。
- (4) [p.5] 語句の長くなるときは、このようにも切る。以下切りかたは必ずしも揃えていない。
- (5) [p.5] こうしたなくてもよいようなものが多い。しかし、訳にあたるものはつけておく。
- (6) [p.6] -ɣaiは-ɣaja(のだ)ともいう。
- (7) [p.6] keはkaのていねいな形。
- (8) [p.6] ho:reθ:である。カナならばホレーとでもしたいところ。以下同様。
- (9) [p.6] (だろうね)と訳したが、(でしょうね)に近い気持の表現。

- (10) [p. 7] he:kara は horekara (それから) におなじ。
- (11) [p. 8] a n c j a n は長男のこと、ここではおばあさんの孫。
- (12) [p. 9] o t o q c a n (お父さん) はおばあさんの夫のこと。
- (13) [p. 9] k i t a q t a (来られた) は k i t a に対する敬語。
- (14) [p. 10] o r a n z j a q t a (おられなかった) は o r a n a n d a に対する敬語。
- (15) [p. 11] s i o m a c i の町名は志雄^{アツ}、字名は子浦^{コウ}と書く。志雄町の中心が字子浦である。
- (16) [p. 11] 志雄・子浦を〔ʃu:〕という。
- (17) [p. 11] m o n o s u ŋ o i は若年に多い。このおばあさんが使うとは考えなかった。なお、このおばあさん是对話の前半かなりあらたまっている。t a k u s a n (沢山) が後半 j a m o d o (沢山) に変ることからもわかる。
- (18) [p. 11] - ŋ e は - ŋ a i ← ŋ a j a (のだ) よりもていねいな形。- ŋ e (です) と訳しておく。
- (19) [p. 13] h i t o k a z u k i になえる荷量(単位)。
- (20) [p. 13] u c i r a 私の家などではの意味。
- (21) [p. 14] w a s i 男子の自称、ただし、加賀や能登。越中では女子が w a : s i 。
- (22) [p. 14] n a : N なにも・いいえ。
- (23) [p. 14] n a : N (なにも)、あとの i k a n (行かない) にかかる。
- (24) [p. 14] o t o m a たとえば、音吉などを心安く「オトマ」と呼ぶ。
- (25) [p. 16] k a q t a t o k o 勝った角力取りの出た部落。
- (26) [p. 17] h o n n e それね・あれね・例の
- (27) [p. 19] - ŋ a k a i (一のか) は「一のかよ」とでも訳すべきか。
- (28) [p. 20] o r a 自称。口能登や越中の特徴。加賀・越前は u r a , 奥能登は o r e である。
- (29) [p. 24] o b a b a おばあさんを心安く呼んでいる。
- (30) [p. 24] k a w a r a (河原?) 人名。
- (31) [p. 24] n a n m o ほかは「なにも」せずの意味。
- (31b) [p. 24] a r c e 獅子舞いのハヤシ。
- (32) [p. 25] g e n m a i 玄米。
- (33) [p. 25] s i n m a i 新米。
- (34) [p. 26] h o : z i 真宗寺の報恩講のこと。寺の前に店が並ぶ。
- (35) [p. 26] n a ŋ i m i s u (なります)。ていねいな云いかた。金沢が中心である。
- (35 b) [p. 28] () 内は話し手 S のジェスチャに対するおばあさんの発言。
- (36) [p. 32] m o n k a r a は m o n ŋ a : (ものが) であるかも知れない。訳は「ものが」とし
ておく。
- (37) [p. 32] m i q c a は m i k u s a の早口と考える。

- (38) [p. 33] nanmo なにも・いいえ。nanmo ja は「違う」。
- (39) [p. 33] beqcja 別だ・違う・いいえ。能登のベッチャはこの志雄町からである。
- (40) [p. 33] beqcjagine (39)の beqcjawane とおなじく「違います」と訳し得る。
- (41) [p. 33] iqpiki 人でも物でも iqpiki。
- (42) [p. 36] ja:ja (母) 母は okaka・ka:ka・ja:ja の順にわるくなる。つまり ja:ja は低い階層の母。
- (43) [p. 37] ne:sa 家のニックネーム。—sa は一さん。
- (44) [p. 38] ancyan (長男)。
- (45) [p. 40] gozabo:si 雨具の一種。ゴザでつくる。この発音は gozabos+, ゴザボスのように聞かれる。
- (46) [p. 45] hesuna nakaro (hesinai ことはないだろう)。hesinai 待遠い。たいくつだ。
- (47) [p. 45] bakaraide (わからなくて)は wakaraide が普通。bakaraide ふうは東に接する越中が本場。
- (48) [p. 45] konnapeə (こんなのだ)は konnapaja の変形。
- (49) [p. 45] rikucuna 「都合よい・便利な」。用途の広い rikucu な語である。金沢でも使う。
- (49b) [p. 46] ()内は話し手 I に対する話し手 S の発言。話し手 D とは関係がない。
- (50) [p. 51] bosa:qto ボンヤリ何もしないで。
- (51) [p. 52] nan sita (なににしたということもない、まことにつまらない)の意味。あいさつによく使われる。
- (52) [p. 55] kenke—kurenke (くれませんか)
- (53) [p. 60] hairo—hojaro (そうだろう)。念を押すとき、対話でよく使う。
- (54) [p. 61] ho:no kara. dono ho:no (どの方の)を dono ho:kara (どの方から)にしようとしたためかと思う。
- (55) [p. 62] jamodo (たくさん)。これまでは takusan を使っていた。これは後半気楽になった証拠であろうか。
- (56) [p. 63] kanazao (金沢)のこと。郡部でのもっと普通の形は kanezao。
- (57) [p. 64] hajaro そうだろう。hojaro・hairo が普通。
- (58) [p. 65] kodomono ju: koto は kodomono koto ju: dani (子供のことをいうのに)のようにしないと意味が通じないかと思う。

非 売 品

1968年10月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町